

第3章 仕事・職場環境，両立支援，男女共同参画の現状と意識： 2009年度調査と2020年度調査の比較(1)

3-1. はじめに

この章では，2009年度に実施した「岡山大学の男女共同参画に関するアンケート調査」（以下，「2009年度調査」とする）の結果と今回の「ダイバーシティに関するアンケート」（以下，2020年度調査とする）の結果を照らし合わせ，「仕事・職場環境」「仕事・研究と生活の両立支援」「男女共同参画の現状と意識」に関連する設問に対する回答を検討することで，本学構成員を取り巻く状況や意識の変化の有無を探ることとする。

なお，本章で示すグラフは，基本的に以下の方針に基づいた配色としている。

- 肯定的回答：ピンク
- 否定的回答：ブルー
- どちらともいえない：グレー
- 知らない：黄色
- わからない：紫
- 答えたくない：オレンジ
- 無回答：薄緑

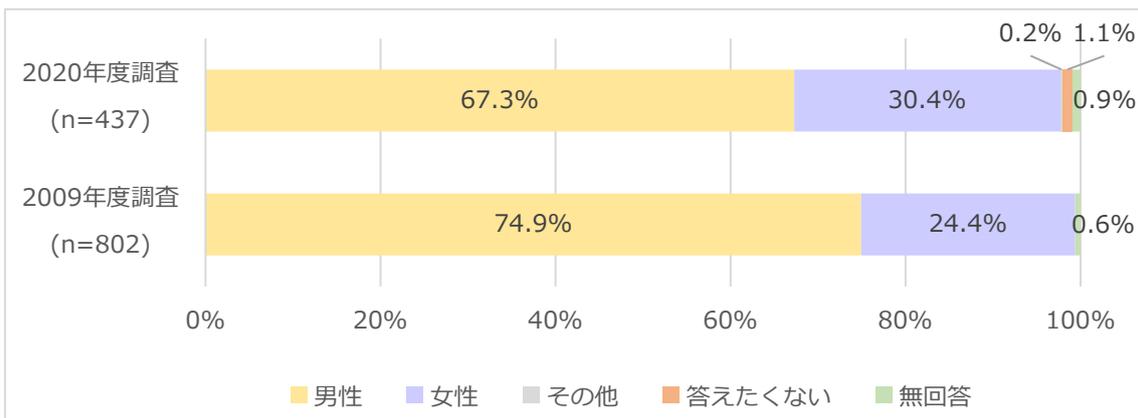
3-2. 回答者のプロフィール

具体的な設問への回答を検討する前に、本節で回答者属性別のプロフィールの比較をおこなっておく。

3-2-1. 教員のプロフィール

性別【教員】

Q あなたの性別を教えてください。



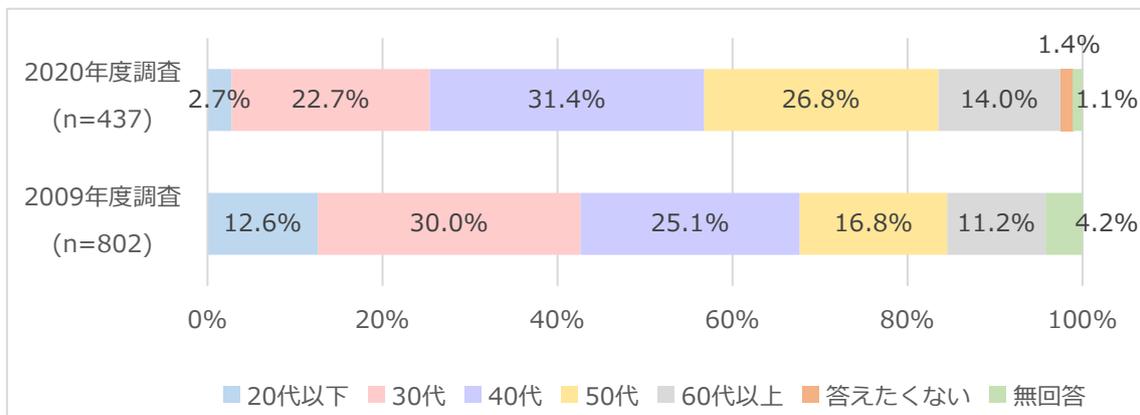
教員回答者の性別を見ると、女性の割合は2009年度調査では約25%だったが、2020年度調査では約30%に増加した。

	件数	割合
2020年度調査		
男性	294	67.3%
女性	133	30.4%
その他	1	0.2%
答えたくない	5	1.1%
無回答	4	0.9%
合計	437	100.0%
2009年度調査		
男性	601	74.9%
女性	196	24.4%
無回答	5	0.6%
合計	802	100.0%

年代【教員】

Q あなたは2021年2月1日現在で何歳ですか。

(※2009年度調査は2009年調査時の年齢)

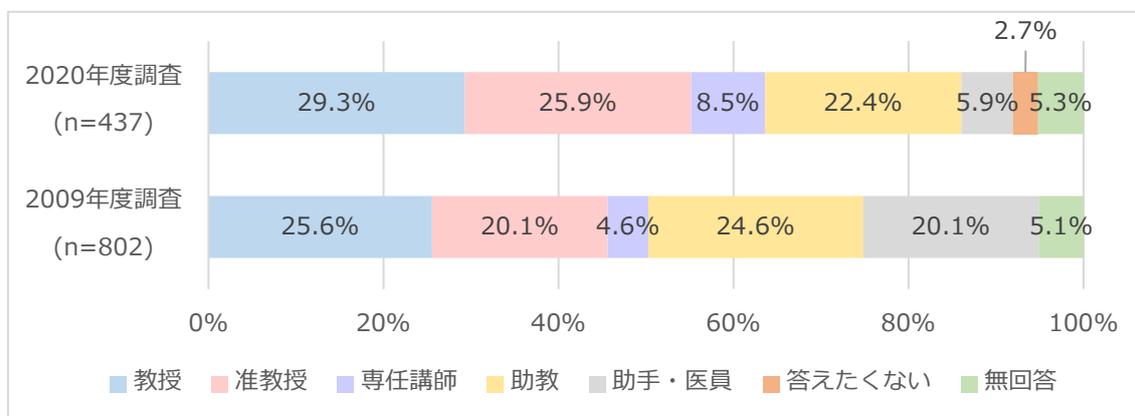


教員回答者の年齢構成は、2009年度調査では30代までが全体の4割強を占めていたが、2020年度調査では30代までの割合は約25%で、40代以上の割合、とくに50代の割合が増えた。

	件数	割合
2020年度調査		
20代以下	12	2.7%
30代	99	22.7%
40代	137	31.4%
50代	117	26.8%
60代以上	61	14.0%
答えたくない	6	1.4%
無回答	5	1.1%
合計	437	100.0%
2009年度調査		
20代以下	101	12.6%
30代	241	30.0%
40代	201	25.1%
50代	135	16.8%
60代以上	90	11.2%
無回答	34	4.2%
合計	802	100.0%

職位【教員】

Q あなたの現在の職位は、次のうちどれですか。

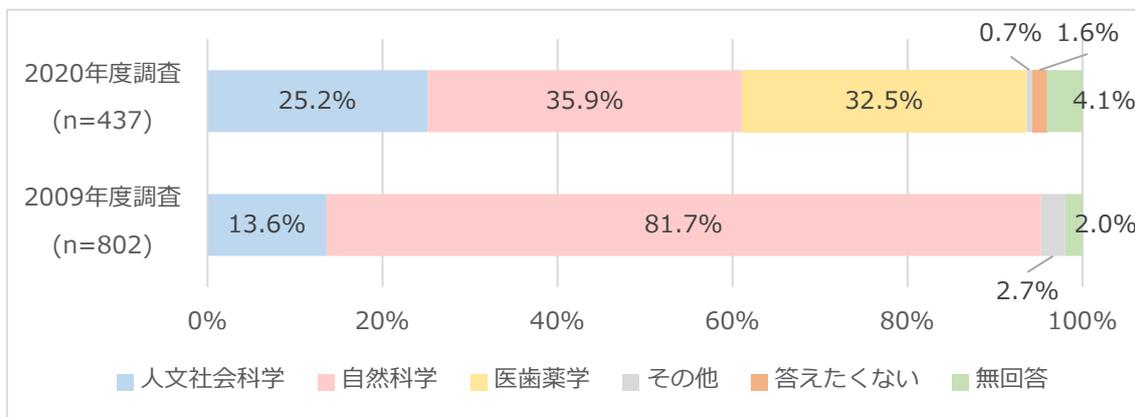


教員回答者の職位の構成割合は、2009年度調査と2020年度調査で大きな変化はみられない。ただし2020年度調査では、教授、准教授、専任講師の割合が増え、助手・医員の割合が減少した。

	件数	割合
2020年度調査		
教授	128	29.3%
准教授	113	25.9%
専任講師	37	8.5%
助教	98	22.4%
助手・医員	26	5.9%
答えたくない	12	2.7%
無回答	23	5.3%
合計	437	100.0%
2009年度調査		
教授	205	25.6%
准教授	161	20.1%
専任講師	37	4.6%
助教	197	24.6%
助手・医員	161	20.1%
無回答	41	5.1%
合計	802	100.0%

専門分野【教員】

Q あなたの専門分野は、次のうちどれですか。

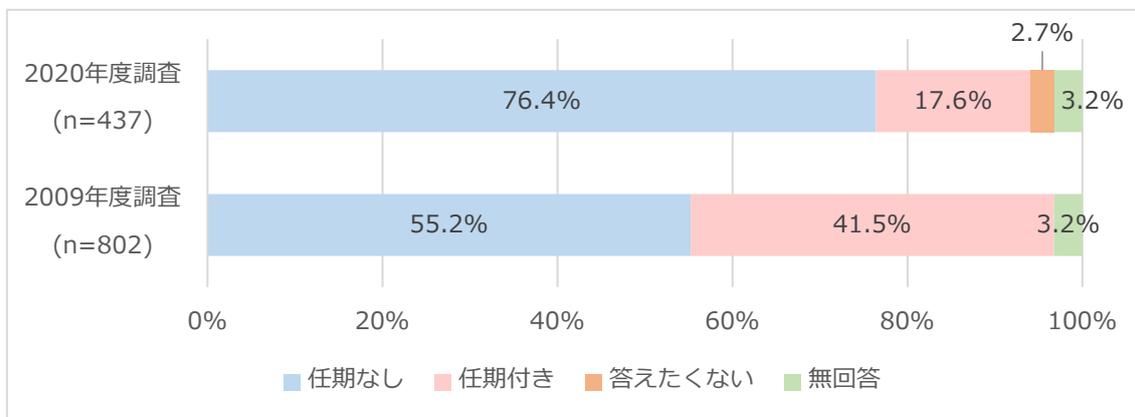


教員回答者の専門分野について、2009年度調査では医歯薬学分野が自然科学分野に含まれているため、自然科学分野と医歯薬学分野の割合が不明である。2020年度調査では、人文社会科学分野の割合が2009年度調査より10%強増加し、全体の約1/4を占めた。

	件数	割合
2020 年度調査		
人文社会科学	110	25.2%
自然科学	157	35.9%
医歯薬学	142	32.5%
その他	3	0.7%
答えたくない	7	1.6%
無回答	18	4.1%
合計	437	100.0%
2009 年度調査		
人文社会科学	109	13.6%
自然科学	655	81.7%
その他	22	2.7%
無回答	16	2.0%
合計	802	100.0%

雇用契約【教員】

Q あなたの雇用契約は次のうち、どちらですか。

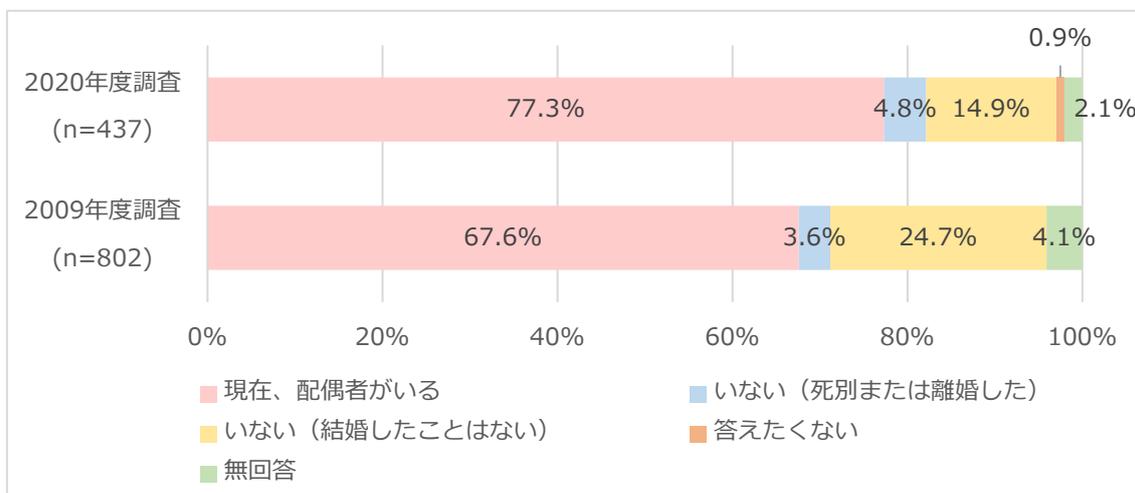


教員回答者の雇用契約については、2009年度調査と比べて2020年度調査では任期なしの割合が約20%増加した。今回調査の回答者の職位の構成割合で助手・医員が減少したことと関連があると思われる。

	件数	割合
2020年度調査		
任期なし	334	76.4%
任期付き	77	17.6%
答えたくない	12	2.7%
無回答	14	3.2%
合計	437	100.0%
2009年度調査		
任期なし	443	55.2%
任期付き	333	41.5%
無回答	26	3.2%
合計	802	100.0%

配偶者の有無【教員】

Q あなたには、現在、配偶者がいますか。(婚姻届の有無は問いません)

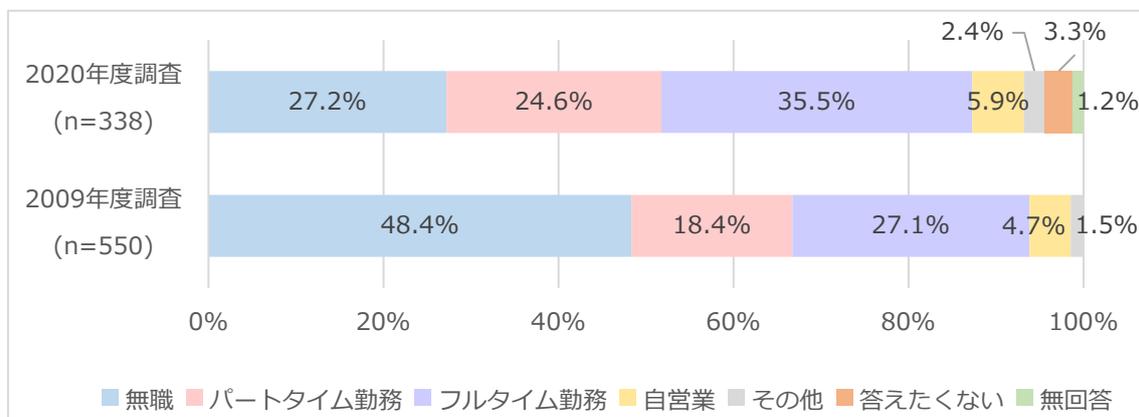


教員回答者の配偶者の有無について、2009年度調査と2020年度調査では大きな違いはみられないが、2020年度では「現在、配偶者がいる」とする回答割合が増加し、「いない（結婚したことはない）」とする回答割合が減少した。

	件数	割合
2020年度調査		
現在、配偶者がいる	338	77.3%
いない（死別または離婚した）	21	4.8%
いない（結婚したことはない）	65	14.9%
答えたくない	4	0.9%
無回答	9	2.1%
合計	437	100.0%
2009年度調査		
現在、配偶者がいる	542	67.6%
いない（死別または離婚した）	29	3.6%
いない（結婚したことはない）	198	24.7%
無回答	33	4.1%
合計	802	100.0%

配偶者の勤務状況【教員】

Q 配偶者の有無に関する設問で、「現在、配偶者がいる」を選択した方にお尋ねします。配偶者の勤務状況について、次のうちあてはまるものを選択してください。

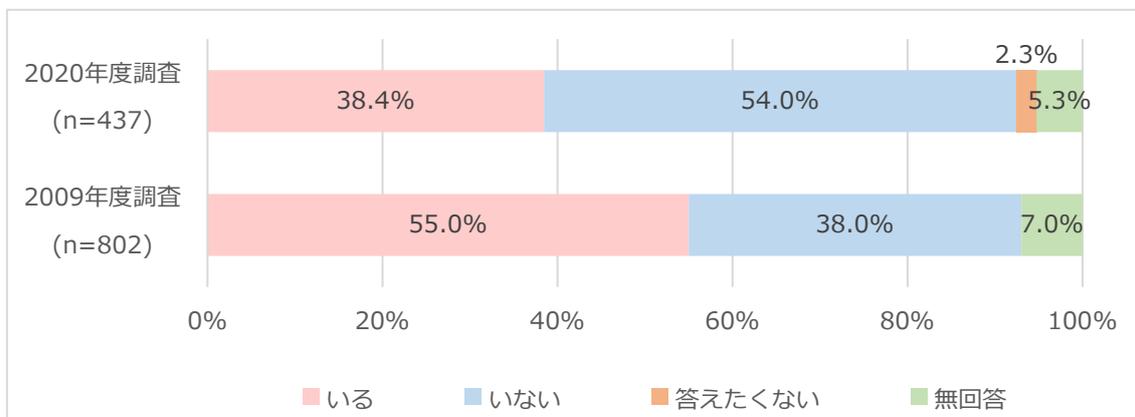


教員回答者の配偶者の勤務状況については、2009年度調査と比べて2020年度調査では無職の割合が約20%減と大幅に減少した一方、パートタイム勤務およびフルタイム勤務の割合が増加した。つまり、共働き世帯の割合が増えたことになる。

	件数	割合
2020年度調査		
無職	92	27.2%
パートタイム勤務	83	24.6%
フルタイム勤務	120	35.5%
自営業	20	5.9%
その他	8	2.4%
答えたくない	11	3.3%
無回答	4	1.2%
合計	338	100.0%
2009年度調査		
無職	266	48.4%
パートタイム勤務	101	18.4%
フルタイム勤務	149	27.1%
自営業	26	4.7%
その他	8	1.5%
合計	550	100.0%

子どもの有無【教員】

Q あなたに高校生までのお子さんはいますか。



教員回答者のうち、高校生までの子どもがいる割合は、2009年度調査と比べ、2020年度調査では約17ポイント減少した。

	件数	割合
2020年度調査		
いる	168	38.4%
いない	236	54.0%
答えたくない	10	2.3%
無回答	23	5.3%
合計	437	100.0%
2009年度調査		
いる	441	55.0%
いない	305	38.0%
無回答	56	7.0%
合計	802	100.0%

介護の有無【教員】

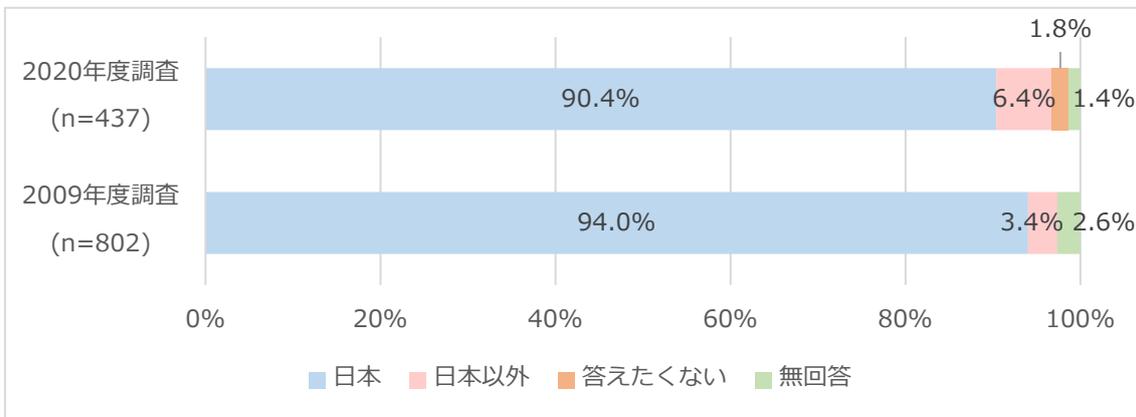
Q あなたに介護を必要とする近親者はいますか。

教員回答者の介護の有無については、2020年度調査は複数回答可としたが、このカテゴリーではすべての回答者が1つのみを回答していたため、択一回答を求めた2009年度との比較が可能であった。「介護が必要な近親者はいない」とする回答割合は2020年度は65.0%で、2009年度の70.3%から若干減少した。

	件数	割合
2020年度調査（複数回答可）		
介護が必要な近親者と同居している	13	-
介護が必要な近親者と別居している	103	-
介護が必要な近親者はいない	284	-
答えたくない	30	-
無回答	7	-
2009年度調査		
介護が必要な近親者と同居している	29	3.6%
介護が必要な近親者と別居している	182	22.7%
介護が必要な近親者はいない	564	70.3%
無回答	27	3.4%
合計	802	100.0%

国籍【教員】

Q あなたの国籍は次のうち、どれですか。

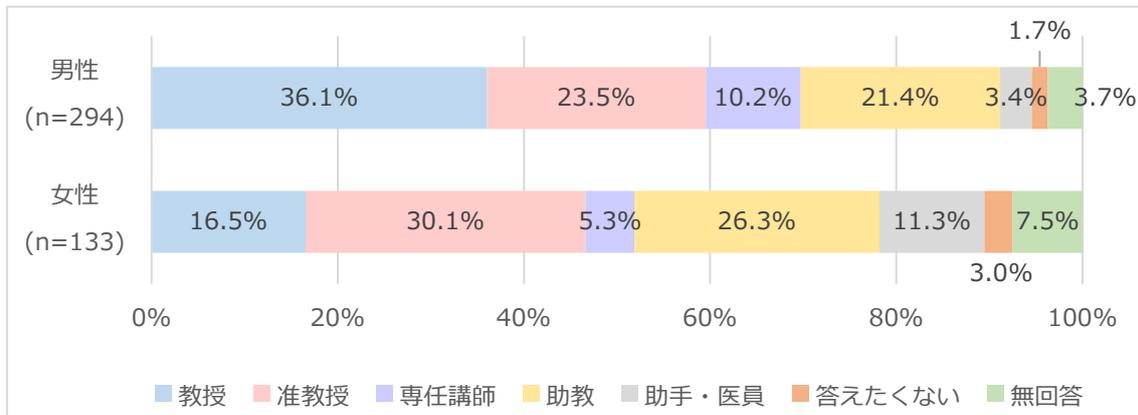


教員回答者の国籍について、2020年度調査では「日本以外」とする回答割合が若干増加した。今回は英文の調査票を作成したことが影響している可能性もある。また、日本と他国の二重国籍者や保持する国籍とは別に海外生育歴がある人なども含まれる可能性があることから、この設問だけでは教員集団の国際性を判断することはできないことに留意する必要がある。

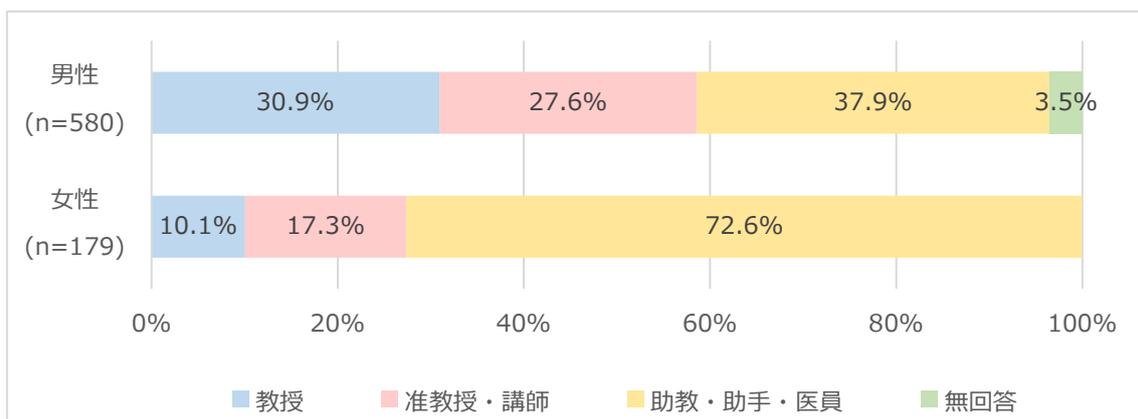
	件数	割合
2020年度調査		
日本	395	90.4%
日本以外	28	6.4%
答えたくない	8	1.8%
無回答	6	1.4%
合計	437	100.0%
2009年度調査		
日本	754	94.0%
日本以外	27	3.4%
無回答	21	2.6%
合計	802	100.0%

性別 × 職位【教員】

2020 年度調査



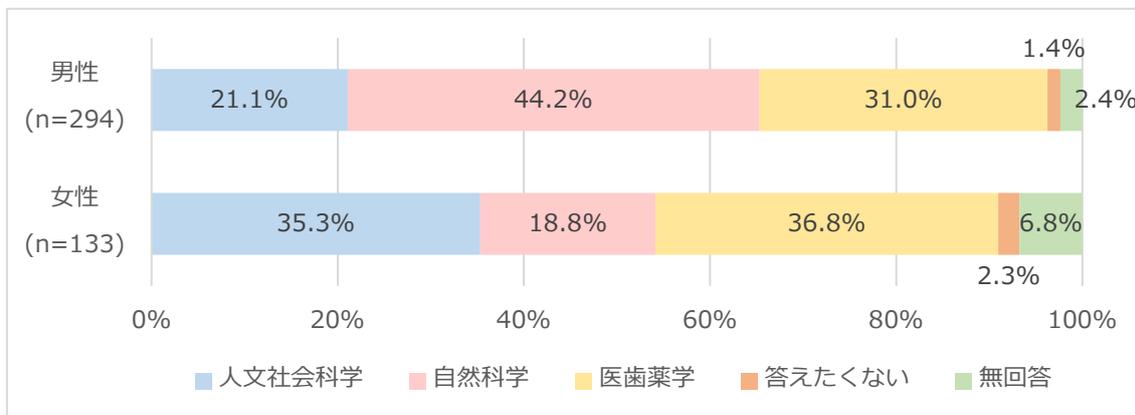
2009 年度調査



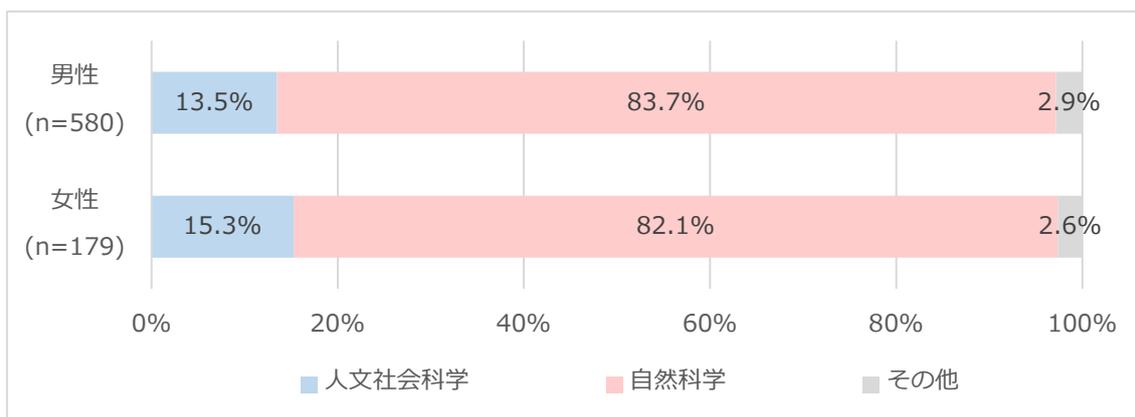
教員回答者の性別ごとの職位内訳を見ると、男性教員では構成割合に大きな違いはみられないが、女性教員では教授および准教授・講師の割合が増加した。この点は、男女共同参画推進の取り組みが影響しているものといえる。

性別 × 専門分野【教員】

2020 年度調査



2009 年度調査

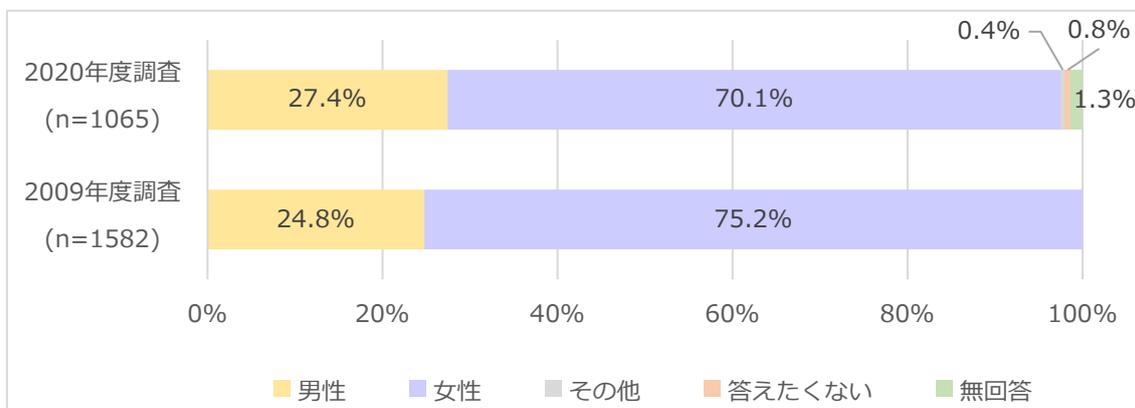


教員回答者の性別ごとの専門分野内訳については、2020 年度調査では男女とも人文社会科学分野の割合が増加したが、とくに女性教員で増加の程度が大きかった。注意点として、2009 年度調査では回答者の男女別専門分野別構成比は実際の在籍者構成比を反映していたのに対し、2020 年度調査では男女とも実際の在籍者構成比とは乖離しており、回答者がたまたま人文社会科学分野に偏ってしまったと考えられる。なお、実際の各専門分野の男女別構成比は 2009 年度調査時と 2020 年度調査時でほぼ同じであった。

3-2-2. 職員のプロフィール

性別【職員】

Q あなたの性別を教えてください。



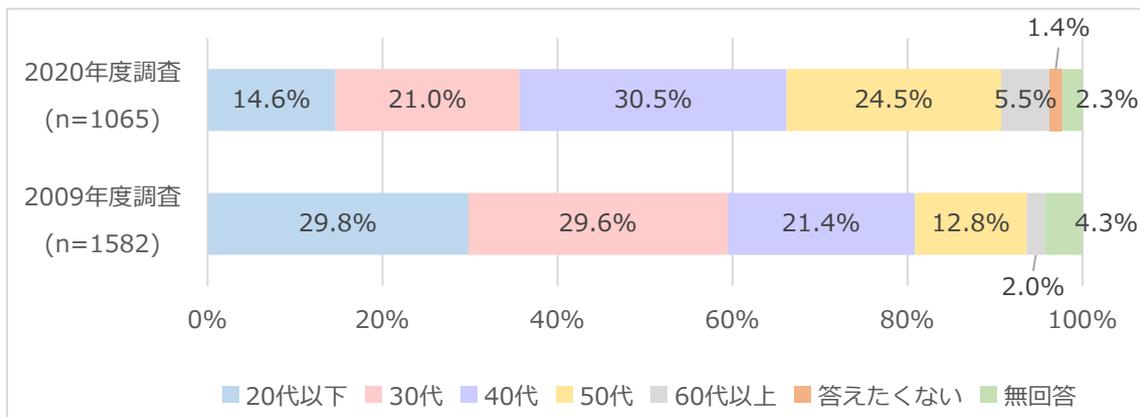
職員回答者の性別は、2009年度調査と2020年度調査で大きな違いはみられなかったが、2020年度調査で男性職員の割合が若干増加した。

	件数	割合
2020年度調査		
男性	292	27.4%
女性	747	70.1%
その他	4	0.4%
答えたくない	8	0.8%
無回答	14	1.3%
合計	1065	100.0%
2009年度調査		
男性	392	24.8%
女性	1190	75.2%
合計	1582	100.0%

年代【職員】

Q あなたは2021年2月1日現在で何歳ですか。

(※2009年度調査は2009年調査時の年齢)

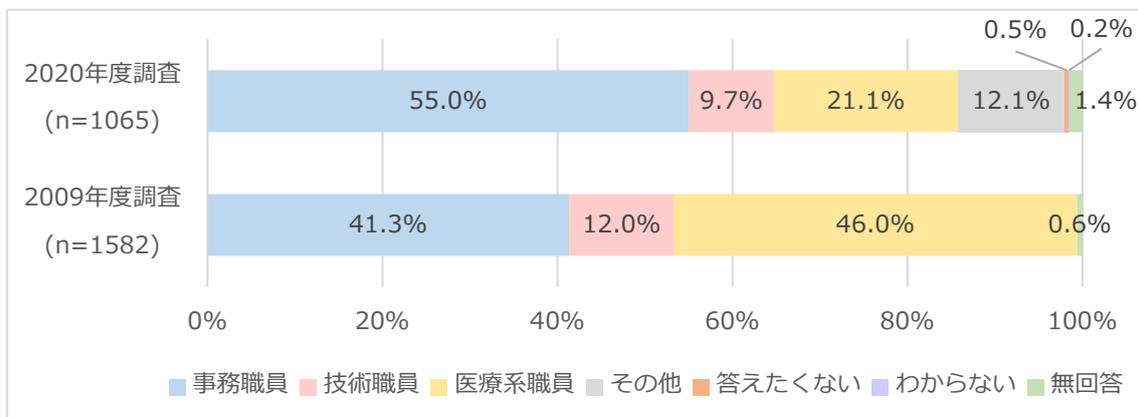


職員回答者の年齢構成は、2009年度調査では30代までが全体の約6割を占めていたが、2020年度調査では30代までの割合は約35%まで減少し、40代以上の割合が増加した。

	件数	割合
2020年度調査		
20代以下	156	14.6%
30代	224	21.0%
40代	325	30.5%
50代	261	24.5%
60代以上	59	5.5%
答えたくない	15	1.4%
無回答	25	2.3%
合計	1065	100.0%
2009年度調査		
20代以下	472	29.8%
30代	469	29.6%
40代	339	21.4%
50代	203	12.8%
60代以上	32	2.0%
無回答	68	4.3%
合計	1582	100.0%

職種【職員】

Q あなたの職種は次のうちどれにあたりますか。

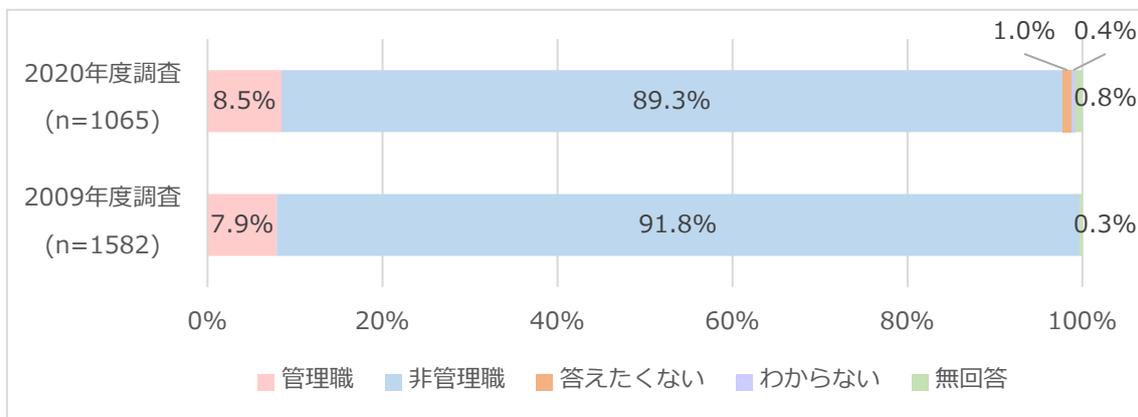


職員回答者の職種の構成割合を見ると、2009年度調査と比べて2020年度調査では事務職員の割合が増加した一方、医療系職員の割合が減少した。

	件数	割合
2020年度調査		
事務職員	586	55.0%
技術職員	103	9.7%
医療系職員	225	21.1%
その他	129	12.1%
答えたくない	5	0.5%
わからない	2	0.2%
無回答	15	1.4%
合計	1065	100.0%
2009年度調査		
事務職員	654	41.3%
技術職員	190	12.0%
医療系職員	728	46.0%
無回答	10	0.6%
合計	1582	100.0%

管理職【職員】

Q あなたは現在管理職ですか。

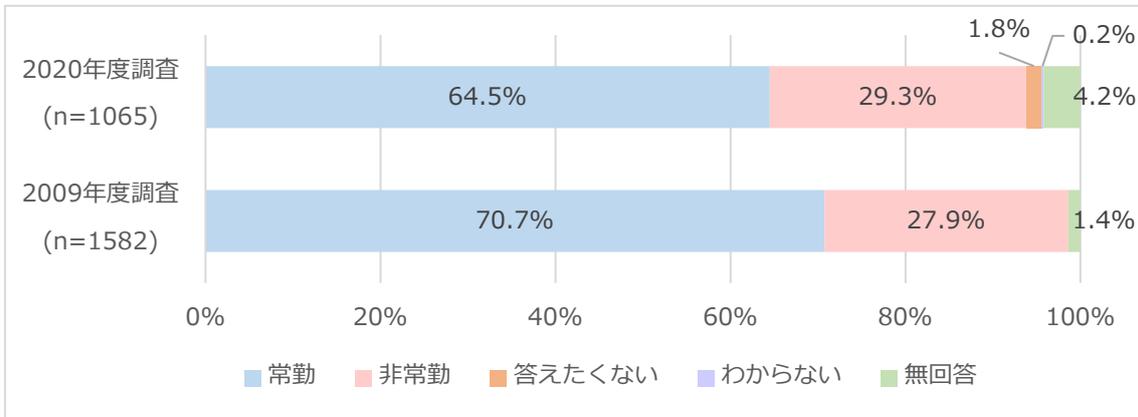


職員回答者の管理職の割合については、2009年度調査と2020年度調査では大きな変化はみられず、どちらも約8%であった。

	件数	割合
2020年度調査		
管理職	90	8.5%
非管理職	951	89.3%
答えたくない	11	1.0%
わからない	4	0.4%
無回答	9	0.8%
合計	1065	100.0%
2009年度調査		
管理職	125	7.9%
非管理職	1452	91.8%
無回答	5	0.3%
合計	1582	100.0%

勤務体系【職員】

Q あなたの勤務体系は次のうち、どちらですか。

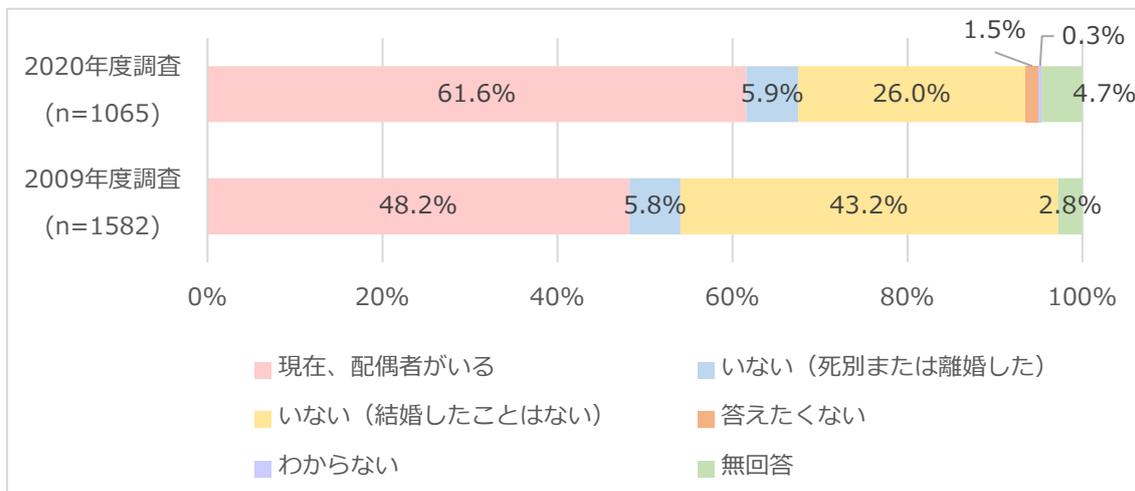


職員回答者の勤務体系について、2009年度調査と2020年度調査では大きな違いはみられず、常勤の割合が全体の約2/3であった。

	件数	割合
2020年度調査		
常勤	687	64.5%
非常勤	312	29.3%
答えたくない	19	1.8%
わからない	2	0.2%
無回答	45	4.2%
合計	1065	100.0%
2009年度調査		
常勤	1119	70.7%
非常勤	441	27.9%
無回答	22	1.4%
合計	1582	100.0%

配偶者の有無【職員】

Q あなたには、現在、配偶者がいますか。(婚姻届の有無は問いません)

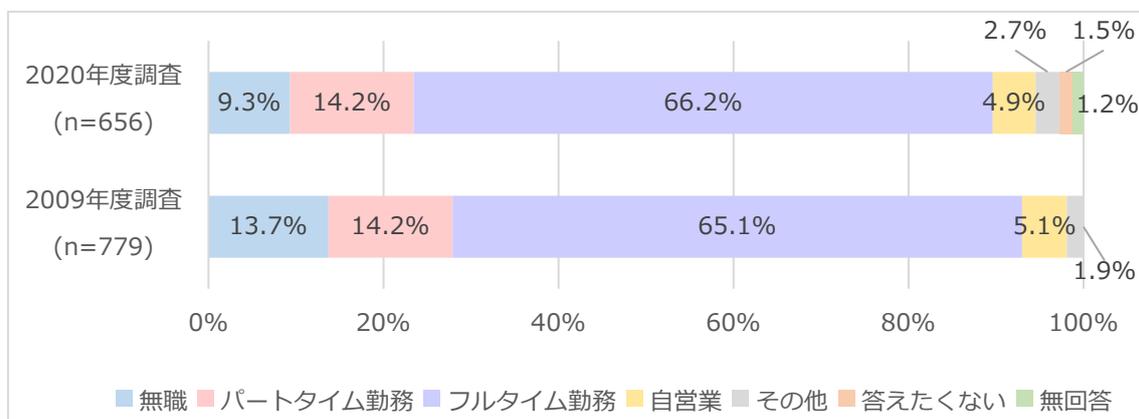


職員回答者の配偶者の有無について、2009年度調査と比較して2020年度では「現在、配偶者がいる」とする回答割合が増加し、「結婚したことはない」とする回答割合が減少した。

	件数	割合
2020年度調査		
現在、配偶者がいる	656	61.6%
いない（死別または離婚した）	63	5.9%
いない（結婚したことはない）	277	26.0%
答えたくない	16	1.5%
わからない	3	0.3%
無回答	50	4.7%
合計	1065	100.0%
2009年度調査		
現在、配偶者がいる	763	48.2%
いない（死別または離婚した）	92	5.8%
いない（結婚したことはない）	683	43.2%
無回答	44	2.8%
合計	1582	100.0%

配偶者の勤務状況【職員】

Q 配偶者の有無に関する設問で、「現在、配偶者がいる」を選択した方にお尋ねします。配偶者の勤務状況について、次のうちあてはまるものを選択してください。

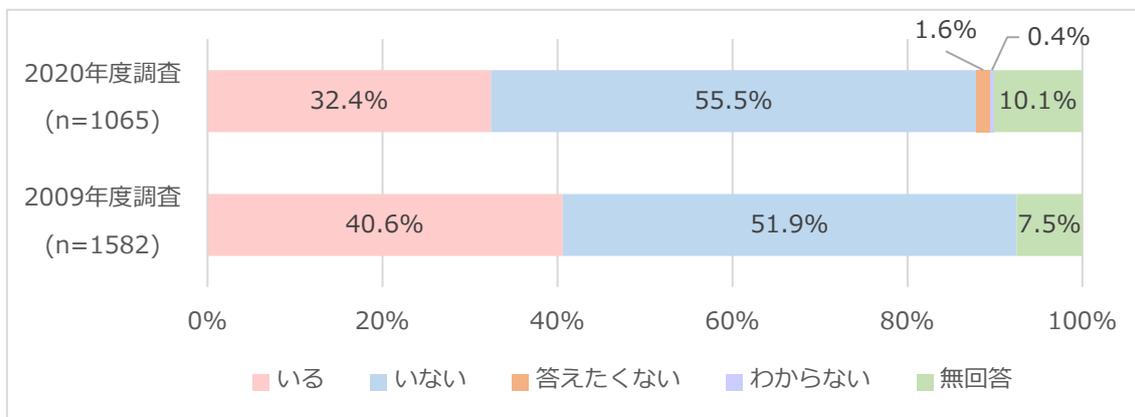


職員回答者の配偶者の勤務状況について、2009年度調査と2020年度調査で大きな違いはみられなかったが、2020年度では無職の割合が若干減少した。

	件数	割合
2020年度調査		
無職	61	9.3%
パートタイム勤務	93	14.2%
フルタイム勤務	434	66.2%
自営業	32	4.9%
その他	18	2.7%
答えたくない	10	1.5%
無回答	8	1.2%
合計	656	100.0%
2009年度調査		
無職	107	13.7%
パートタイム勤務	111	14.2%
フルタイム勤務	507	65.1%
自営業	40	5.1%
その他	15	1.9%
合計	779	100.0%

子どもの有無【職員】

Q あなたに高校生までのお子さんはいますか。



職員回答者の高校生までのお子さんがいる割合は、2009年度調査と比べて2020年度調査では「いる」とする割合が減少した。

	件数	割合
2020年度調査		
いる	345	32.4%
いない	591	55.5%
答えたくない	17	1.6%
わからない	4	0.4%
無回答	108	10.1%
合計	1065	100.0%
2009年度調査		
いる	642	40.6%
いない	821	51.9%
無回答	119	7.5%
合計	1582	100.0%

介護の有無【職員】

Q あなたに介護を必要とする近親者はいますか。

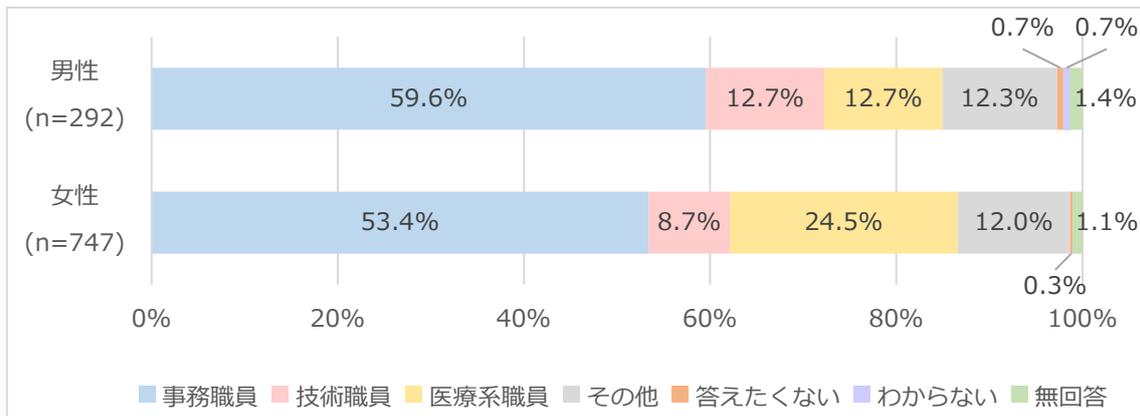
職員回答者の介護の有無については、2009年度調査が択一回答であるのに対し2020年度調査は複数回答であるため、一概には比較できないが、「介護が必要な近親者はいない」とする回答割合が2020年度は66.4%で、若干減少した。

	件数	割合
2020 年度調査（複数回答可）		
介護が必要な近親者と同居している	67	-
介護が必要な近親者と別居している	217	-
介護が必要な近親者はいない	707	-
答えたくない	48	-
わからない	5	-
無回答	20	-
2009 年度調査		
介護が必要な近親者と同居している	96	6.1%
介護が必要な近親者と別居している	302	19.1%
介護が必要な近親者はいない	1120	70.8%
無回答	64	4.0%
合計	1582	100.0%

性別 × 職種【職員】

職員回答者の性別と職種のクロス集計は2009年度調査では行われていなかったため、ここでは2020年度調査の結果のみ示す。

2020年度調査

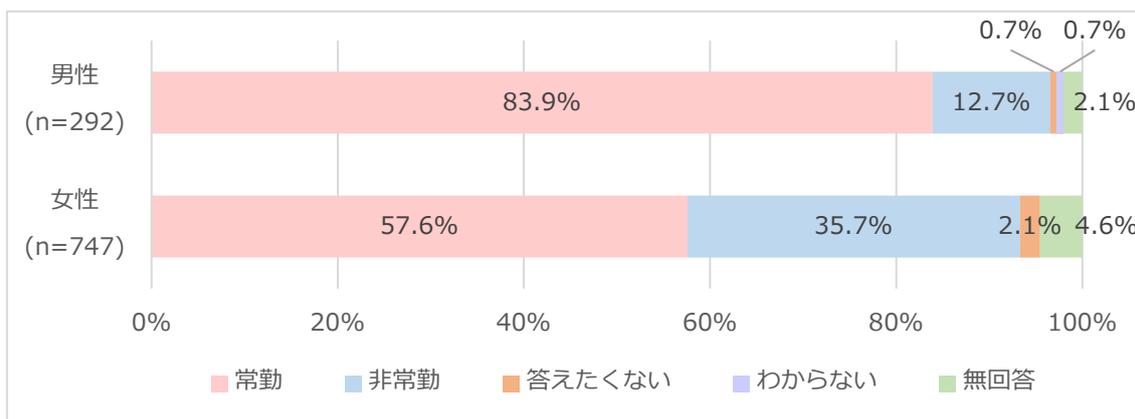


男性も女性も事務職員の割合が高く、半数以上を占めていた。医療系職員の割合は女性職員で高かったが、これは医療系職員の回答者に看護師が多く含まれていたためと考えられる。

性別 × 勤務体系【職員】

職員回答者の性別と勤務体系のクロス集計は2009年度調査では行われていなかったため、ここでは2020年度調査の結果のみ示す。

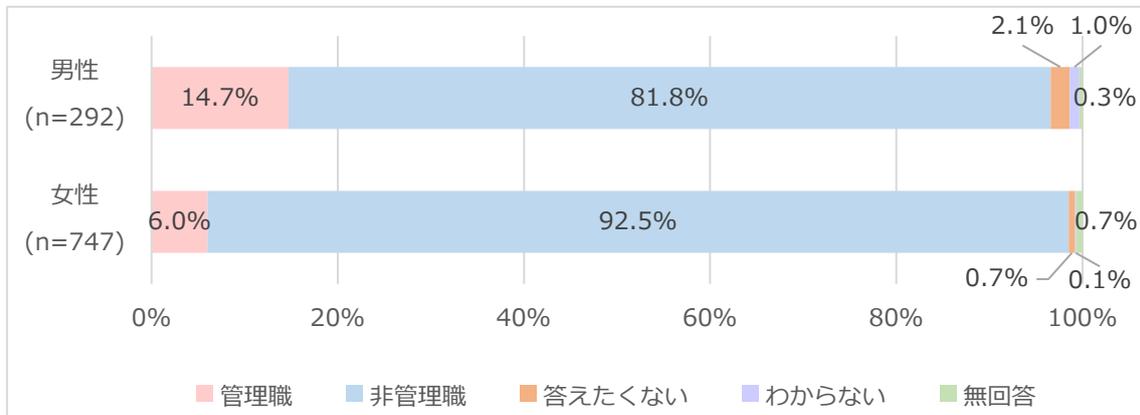
2020年度調査



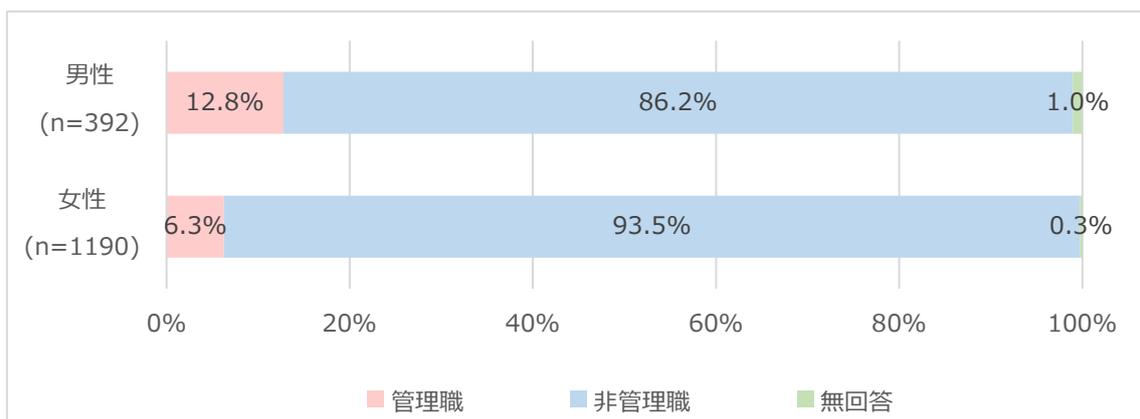
2009年度調査では記録されていないため比較はできないが、2020年度調査の勤務体系別の性別割合は、常勤の割合が男女とも半数を超えていたが、男性職員の方が高く、約84%であった。

性別 × 管理職【職員】

2020 年度調査



2009 年度調査



職員回答者の性別ごとの管理職割合について、2009 年度調査と 2020 年度調査では大きな変化はみられなかった。いずれも女性職員の管理職割合は男性職員の半分以下であり、この点についての改善はみられなかったことになる。

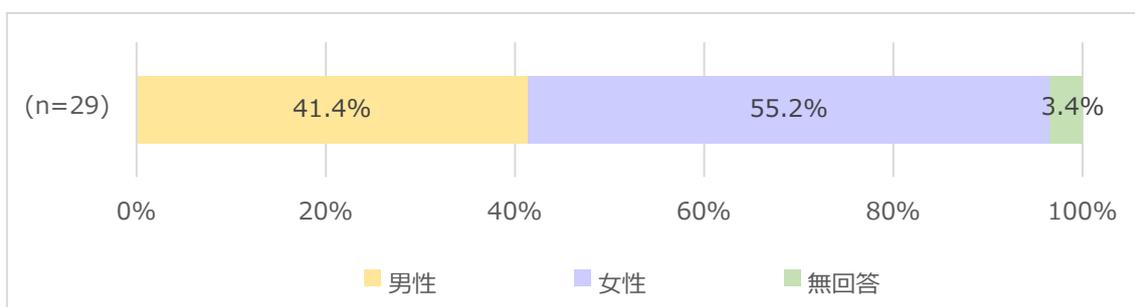
3-2-3. 附属学校教員のプロフィール

附属学校教員に関しては、2009年度調査で調査対象に含まれていなかったため、2020年度調査の結果のみを示す。

性別【附属学校教員】

Q あなたの性別を教えてください。

2020年度調査



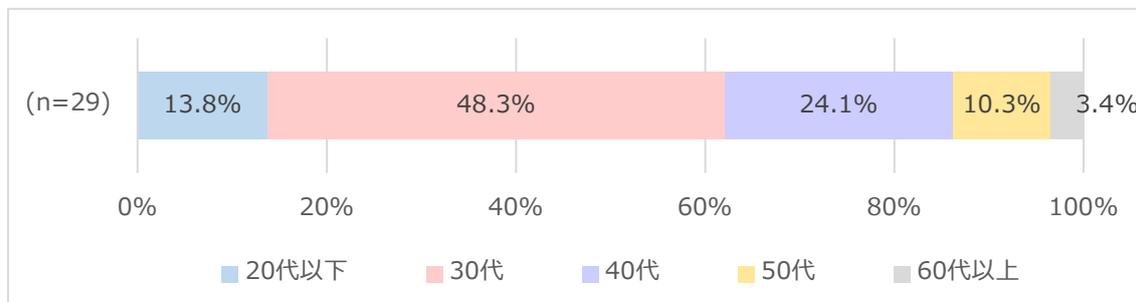
附属学校教員の結果全般にいえることであるが、回答者数が29人と少ない点に留意する必要がある。附属学校教員回答者の性別については、女性の割合の方が高かった。

	件数	割合
男性	12	41.4%
女性	16	55.2%
無回答	1	3.4%
合計	29	100.0%

年齢【附属学校教員】

Q あなたは2021年2月1日現在で何歳ですか。

2020年度調査



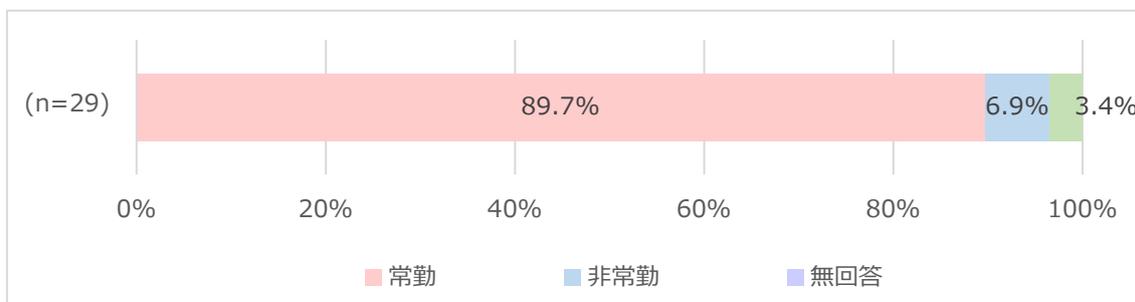
附属学校教員回答者の年齢構成は、30代の割合が高く、全体の約半数を占めた。

	件数	割合
20代以下	4	13.8%
30代	14	48.3%
40代	7	24.1%
50代	3	10.3%
60代以上	1	3.4%
合計	29	100.0%

勤務体系【附属学校教員】

Q あなたの勤務体系は次のうち、どちらですか。

2020年度調査



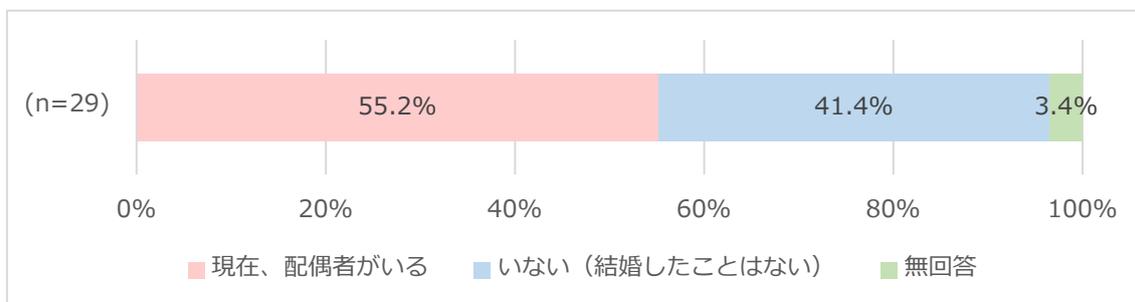
常勤が約9割を占めた。

	件数	割合
常勤	26	89.7%
非常勤	2	6.9%
無回答	1	3.4%
合計	29	100.0%

配偶者の有無【附属学校教員】

Q あなたには、現在、配偶者がいますか。(婚姻届の有無は問いません)

2020年度調査



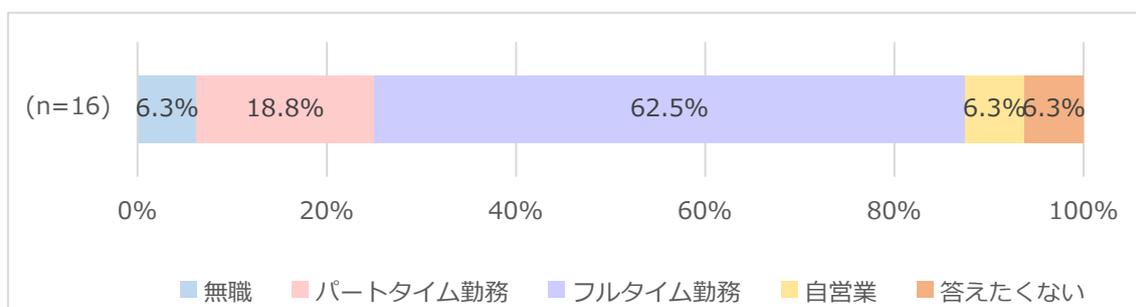
附属学校教員回答者の半数強で、「現在、配偶者がいる」という回答であった。大学教員と比較すると割合が低いですが、これは附属学校教員の方が20代、30代の割合が高かったことが一因であると考えられる。

	件数	割合
現在、配偶者がいる	16	55.2%
いない（死別または離婚した）	0	0.0%
いない（結婚したことはない）	12	41.4%
無回答	1	3.4%
合計	29	100.0%

配偶者の勤務状況【附属学校教員】

Q 配偶者の有無に関する設問で、「現在、配偶者がいる」を選択した方にお尋ねします。配偶者の勤務状況について、次のうちあてはまるものを選択してください。

2020年度調査



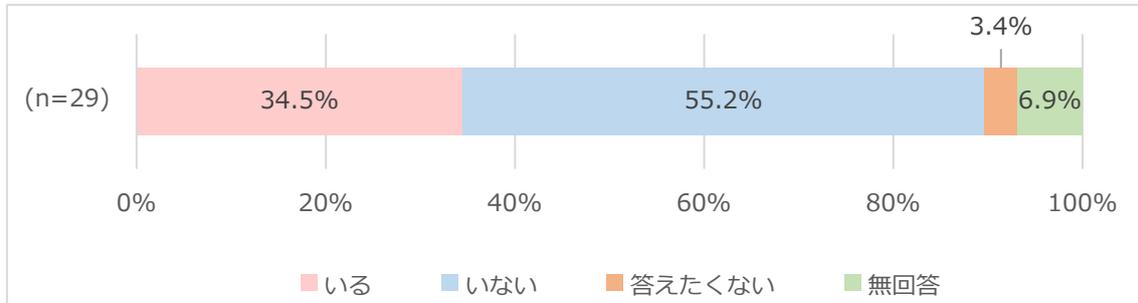
附属学校教員回答者の配偶者の勤務状況について、「無職」とする回答割合は6.3%と低かった。大学教員（約27%）と比べて約20%低かったが、附属学校教員回答者では女性の割合が大学教員より高いことも影響している可能性がある。また、パートタイム勤務よりフルタイム勤務の割合が非常に高く、フルタイム共働き世帯が占める割合の高さを示している。

	件数	割合
無職	1	6.3%
パートタイム勤務	3	18.8%
フルタイム勤務	10	62.5%
自営業	1	6.3%
答えたくない	1	6.3%
合計	16	100.0%

子どもの有無【附属学校教員】

Q あなたには高校生までのお子さんがいますか。

2020年度調査



附属学校教員の現在配偶者がいる割合は大学教員と比べると低いにもかかわらず、附属学校教員回答者の高校生までのお子さんがいる割合は、大学教員の結果とほぼ変わらなかった。この理由として、大学教員は50代以上の割合が高く、高校卒業以上のお子を持つものが一定割合いるためと考えられる。一方、附属学校教員の年齢構成は、大学教員と比べて50代以下の割合が高く、子どもの年齢も大学教員と比較して相対的に低いと考えられる。

	件数	割合
いる	10	34.5%
いない	16	55.2%
答えたくない	1	3.4%
無回答	2	6.9%
合計	29	100.0%

介護の有無【附属学校教員】

Q あなたに介護を必要とする近親者はいますか。

2020年度調査

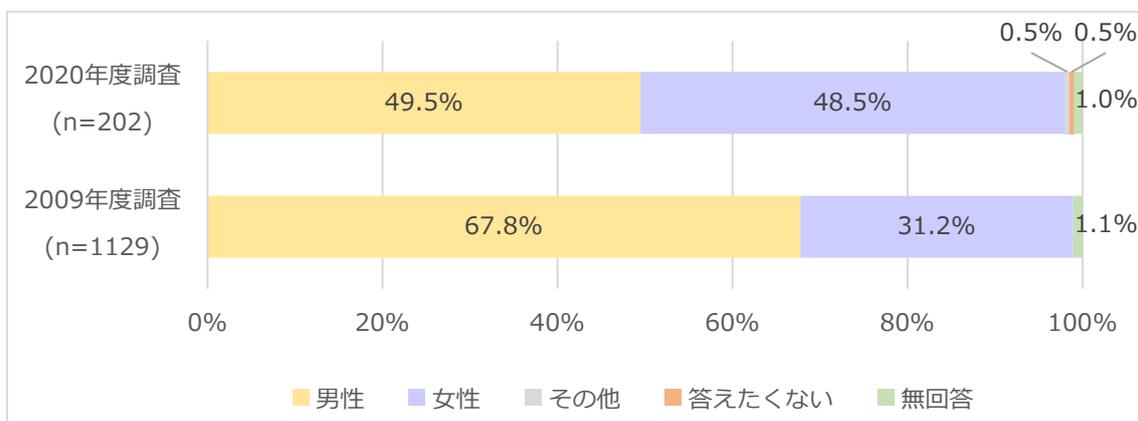
	件数	割合
(複数回答可)		
介護が必要な近親者と同居している	1	-
介護が必要な近親者と別居している	6	-
介護が必要な近親者はいない	20	-

附属学校教員回答者の介護の有無について、大学教員の結果とほぼ変わらなかった。

3-2-4. 大学院生のプロフィール

性別【大学院生】

Q あなたの性別を教えてください。



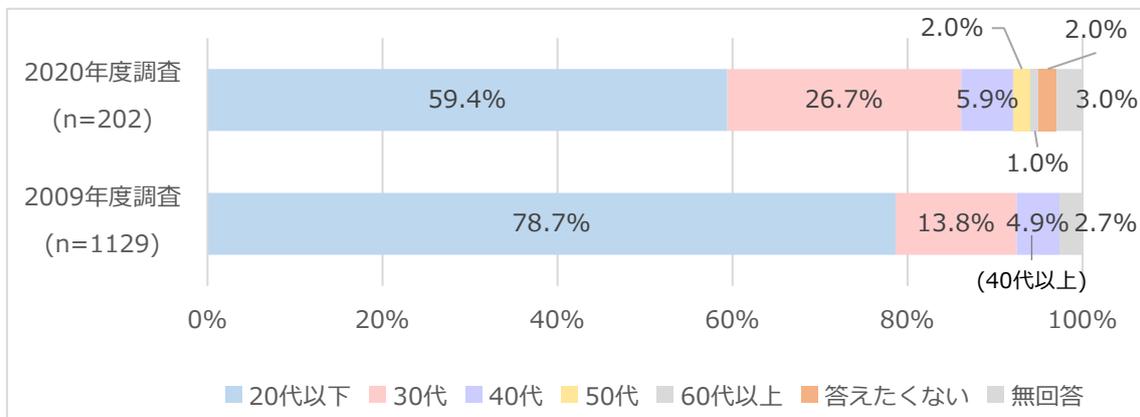
大学院生回答者の性別は、2020年度調査では2009年度調査と比べて男性の割合が減少し、男女の割合がほぼ等しくなった。

	件数	割合
2020年度調査		
男性	100	49.5%
女性	98	48.5%
その他	1	0.5%
答えたくない	1	0.5%
無回答	2	1.0%
合計	202	100.0%
2009年度調査		
男性	765	67.8%
女性	352	31.2%
無回答	12	1.1%
合計	1129	100.0%

年齢【大学院生】

Q あなたは2021年2月1日現在で何歳ですか。

(※2009年度調査は2009年調査時の年齢)

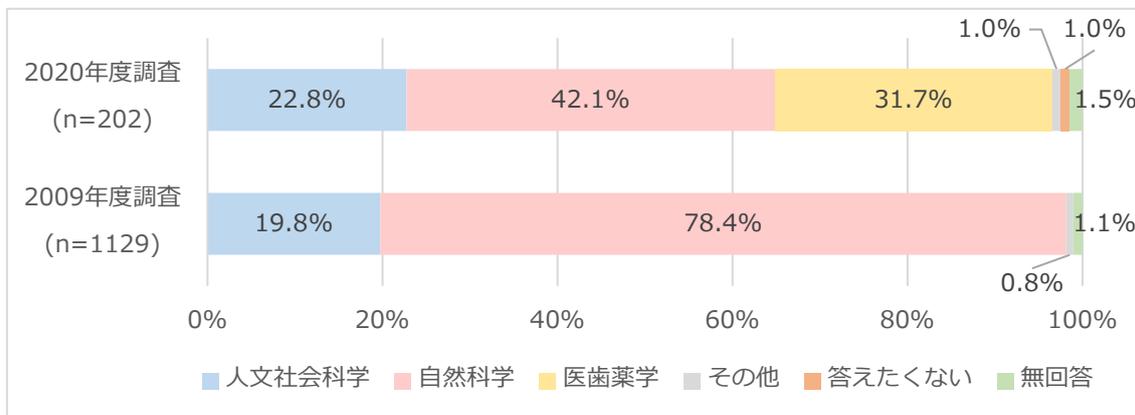


大学院生回答者の年齢構成は、2009年度調査と比べて2020年度調査では20代以下の割合が減少し、30代以上の割合が増加した。

	件数	割合
2020年度調査		
20代以下	120	59.4%
30代	54	26.7%
40代	12	5.9%
50代	4	2.0%
60代以上	2	1.0%
答えたくない	4	2.0%
無回答	6	3.0%
合計	202	100.0%
2009年度調査		
20代前半以下	628	55.6%
20代後半	260	23.0%
30代	156	13.8%
40代以上	55	4.9%
無回答	290	25.7%
合計	1129	100.0%

専門分野【大学院生】

Q あなたの専門分野は、次のうちどれですか。

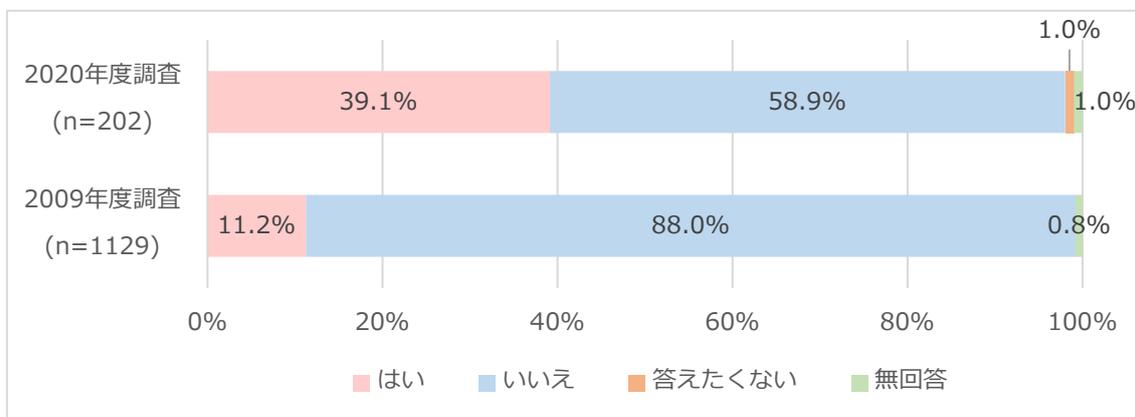


大学院生回答者の専門分野については、2009年度調査では医歯薬学分野が自然科学分野に含まれていたため、自然科学分野と医歯薬学分野の割合が不明である。2009年度調査と比べて2020年度調査では、人文社会科学分野の割合が若干増加した。

	件数	割合
2020年度調査		
人文社会科学	46	22.8%
自然科学	85	42.1%
医歯薬学	64	31.7%
その他	2	1.0%
答えたくない	2	1.0%
無回答	3	1.5%
合計	202	100.0%
2009年度調査		
人文社会科学	223	19.8%
自然科学	885	78.4%
その他	9	0.8%
無回答	12	1.1%
合計	1129	100.0%

留学生【大学院生】

Q あなたは留学生ですか。

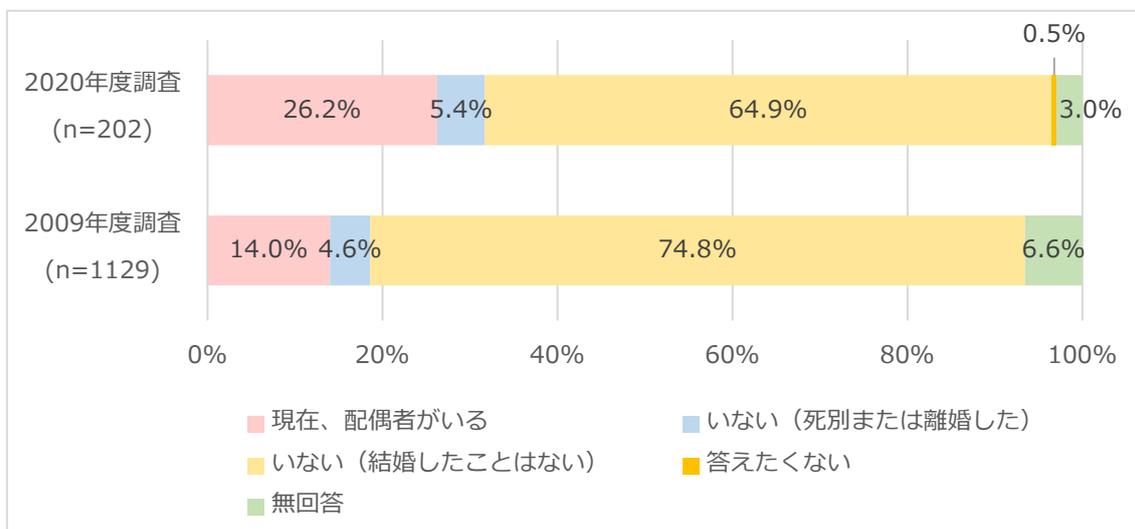


大学院生回答者の留学生割合は、2009年度調査と比べ2020年度調査では約3倍以上に増えていた。今回調査では英文の調査票を作成したことが影響していると考えられる。

	件数	割合
2020年度調査		
はい	79	39.1%
いいえ	119	58.9%
答えたくない	2	1.0%
無回答	2	1.0%
合計	202	100.0%
2009年度調査		
はい	127	11.2%
いいえ	993	88.0%
無回答	9	0.8%
合計	1129	100.0%

配偶者の有無【大学院生】

Q あなたには、現在、配偶者がいますか。(婚姻届の有無は問いません)

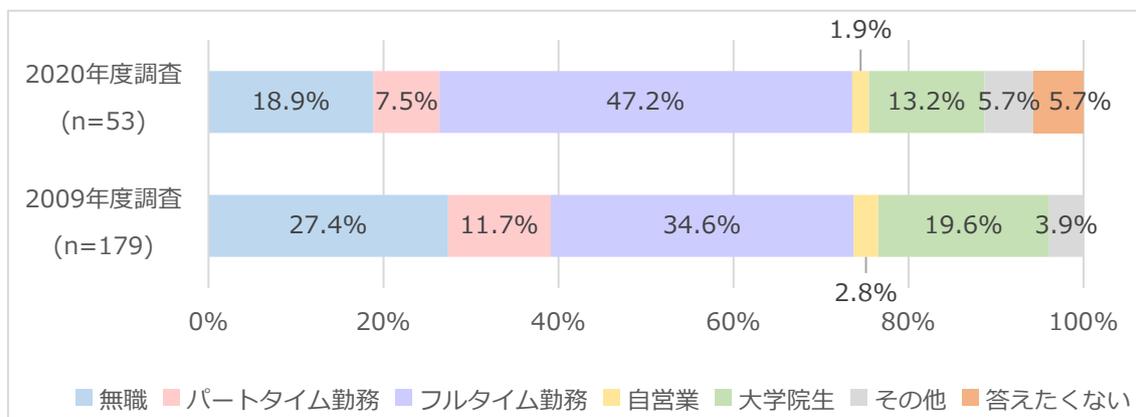


大学院生回答者の配偶者の有無について、2009年度調査と比較して2020年度では「現在、配偶者がいる」とする回答割合が増加し、「いない（結婚したことはない）」とする回答割合が減少した。

	件数	割合
2020年度調査		
現在、配偶者がいる	53	26.2%
いない（死別または離婚した）	11	5.4%
いない（結婚したことはない）	131	64.9%
答えたくない	1	0.5%
無回答	6	3.0%
合計	202	100.0%
2009年度調査		
現在、配偶者がいる	158	14.0%
いない（死別または離婚した）	52	4.6%
いない（結婚したことはない）	845	74.8%
無回答	74	6.6%
合計	1129	100.0%

配偶者の勤務状況【大学院生】

Q 配偶者の有無に関する設問で、「現在、配偶者がいる」を選択した方にお尋ねします。配偶者の勤務状況について、次のうちあてはまるものを選択してください。

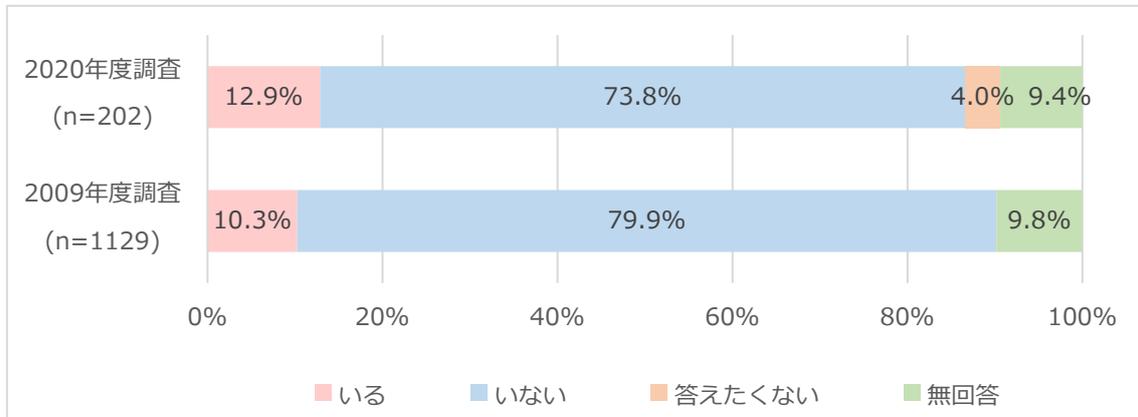


大学院生回答者の配偶者の勤務状況について、2009年度調査と比べて2020年度調査では無職およびパートタイム勤務の割合が減少し、フルタイム勤務の割合が増加した。

	件数	割合
2020年度調査		
無職	10	18.9%
パートタイム勤務	4	7.5%
フルタイム勤務	25	47.2%
自営業	1	1.9%
大学院生	7	13.2%
その他	3	5.7%
答えたくない	3	5.7%
合計	53	100.0%
2009年度調査		
無職	49	27.4%
パートタイム勤務	21	11.7%
フルタイム勤務	62	34.6%
自営業	5	2.8%
大学院生	35	19.6%
その他	7	3.9%
合計	179	100.0%

子どもの有無【大学院生】

Q あなたに高校生までのお子さんはいますか。



大学院生回答者の高校生までのお子さんがいる割合は、2009年度調査と2020年度調査でほぼ同じ結果であった。

	件数	割合
2020年度調査		
いる	26	12.9%
いない	149	73.8%
答えたくない	8	4.0%
無回答	19	9.4%
合計	202	100.0%
2009年度調査		
いる	116	10.3%
いない	902	79.9%
無回答	111	9.8%
合計	1129	100.0%

介護の有無【大学院生】

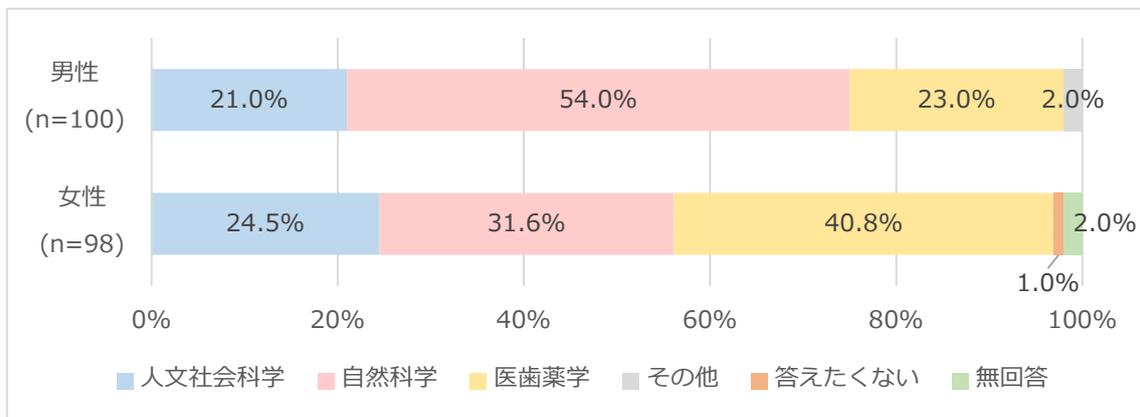
Q あなたに介護を必要とする近親者はいますか。

大学院生回答者の介護の有無について、2009 年度調査は択一回答であるのに対し、2020 年度調査は複数回答であるため、一概には比較できないが、「介護が必要な近親者はいない」とする回答割合が、2020 年度は 71.3% で若干減少した。

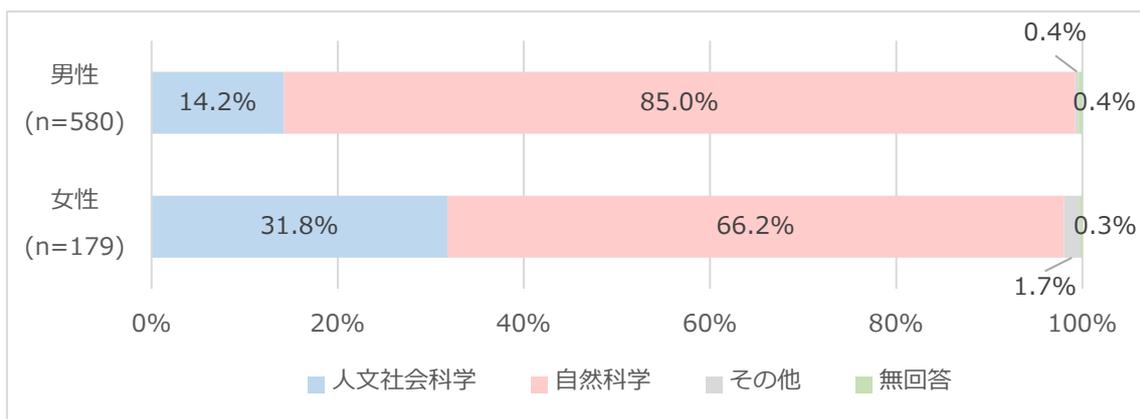
	件数	割合
2020 年度調査（複数回答可）		
介護が必要な近親者と同居している	5	-
介護が必要な近親者と別居している	22	-
介護が必要な近親者はいない	144	-
無回答	7	-
2009 年度調査		
介護が必要な近親者と同居している	38	3.4%
介護が必要な近親者と別居している	166	14.7%
介護が必要な近親者はいない	843	74.7%
無回答	82	7.3%
合計	1129	100.0%

性別 × 専門分野【大学院生】

2020 年度調査



2009 年度調査



大学院生回答者の性別ごとの専門分野内訳については、2009 年度調査と比べて 2020 年度調査では男性院生は人文社会科学分野の割合が増加したが、女性院生では減少した。

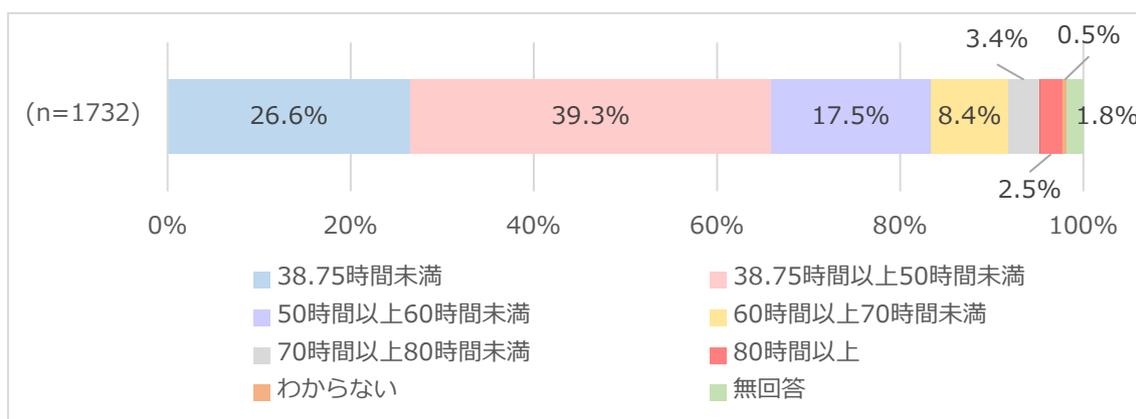
3-3. 仕事・職場環境について

3-3-1. 週勤務時間

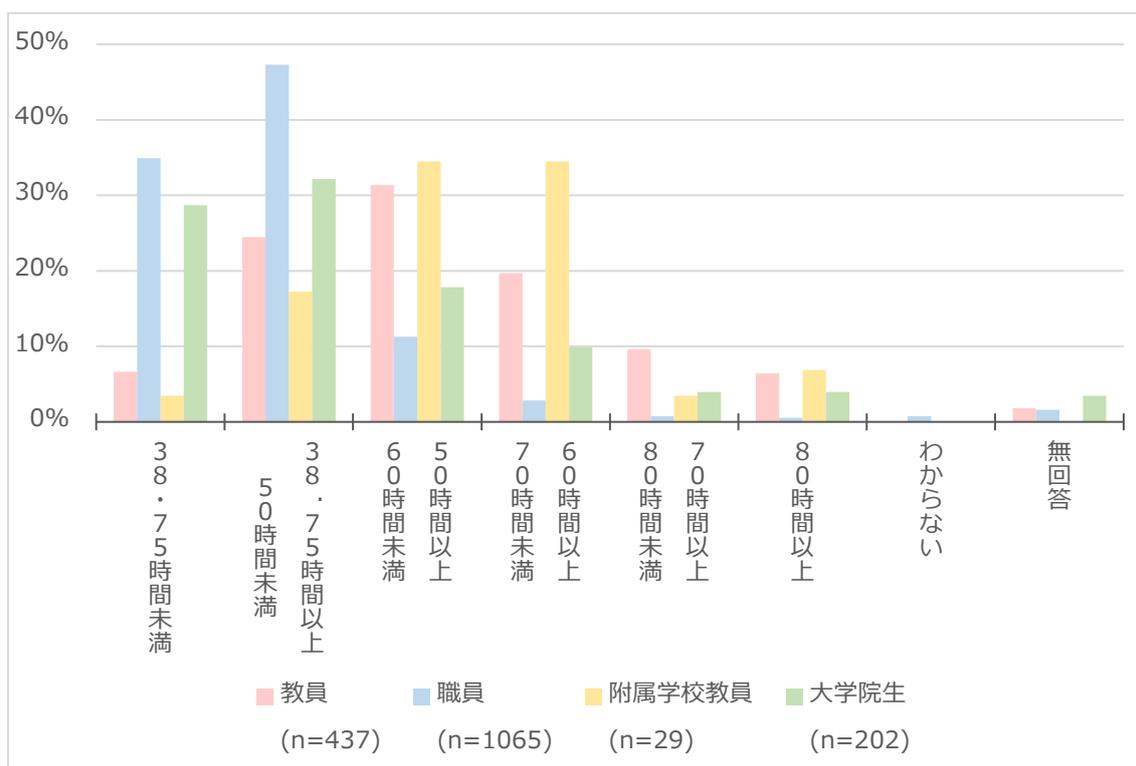
週勤務時間【全体】

Q あなたは、1週間に平均何時間くらい仕事（教育・研究・学内行政業務を含む）や学修に費やしていますか。自宅での時間も含めて教えてください。

2020 年度調査



	件数	割合
38.75 時間未満	460	26.6%
38.75 時間以上 50 時間未満	681	39.3%
50 時間以上 60 時間未満	303	17.5%
60 時間以上 70 時間未満	146	8.4%
70 時間以上 80 時間未満	59	3.4%
80 時間以上	44	2.5%
わからない	8	0.5%
無回答	31	1.8%
合計	1732	100.0%



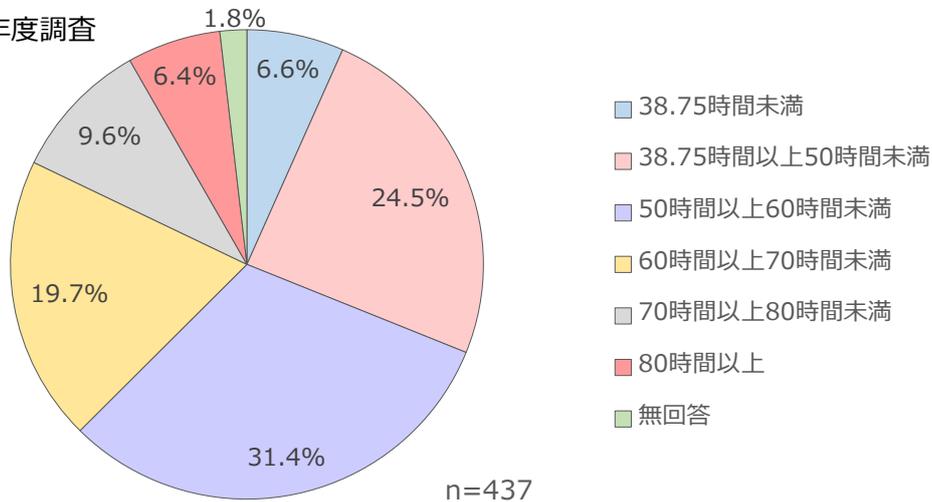
この設問はすべての回答者に対して尋ねているが、大学院生の場合は、研究と学修時間について尋ねた。

附属学校教員は回答者数が少ないため解釈に注意が必要であるが、傾向としては長時間勤務の割合が高く、負担が高いことが推測される。職員の超過勤務時間はそれほど高くない、ワークライフバランスとして最も妥当なところに収まっているといえる。

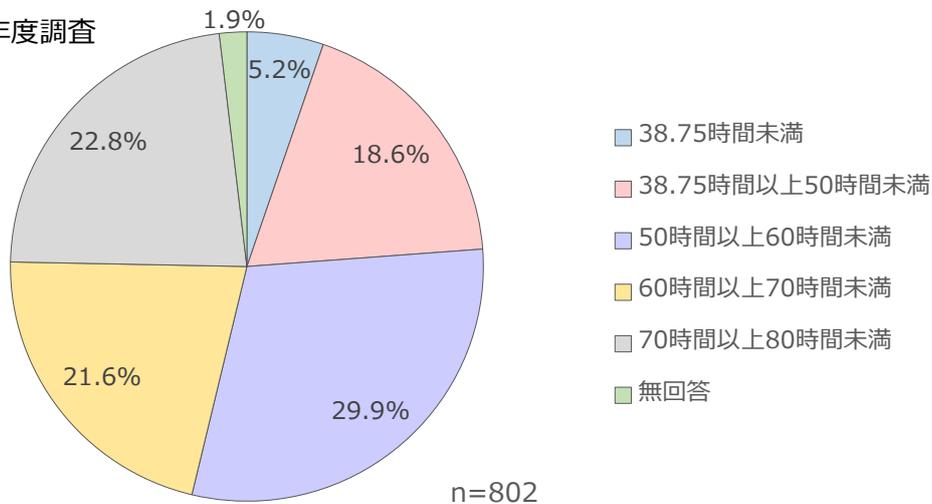
	教員		職員		附属学校教員		大学院生	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
38.75 時間未満	29	6.6%	372	34.9%	1	3.4%	58	28.7%
38.75 時間以上 50 時間未満	107	24.5%	504	47.3%	5	17.2%	65	32.2%
50 時間以上 60 時間未満	137	31.4%	120	11.3%	10	34.5%	36	17.8%
60 時間以上 70 時間未満	86	19.7%	30	2.8%	10	34.5%	20	9.9%
70 時間以上 80 時間未満	42	9.6%	8	0.8%	1	3.4%	8	4.0%
80 時間以上	28	6.4%	6	0.6%	2	6.9%	8	4.0%
わからない	0	0.0%	8	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	8	1.8%	17	1.6%	0	0.0%	7	3.5%
合計	437	100.0%	1065	100.0%	29	100.0%	202	100.0%

週勤務時間【教員】

2020年度調査



2009年度調査

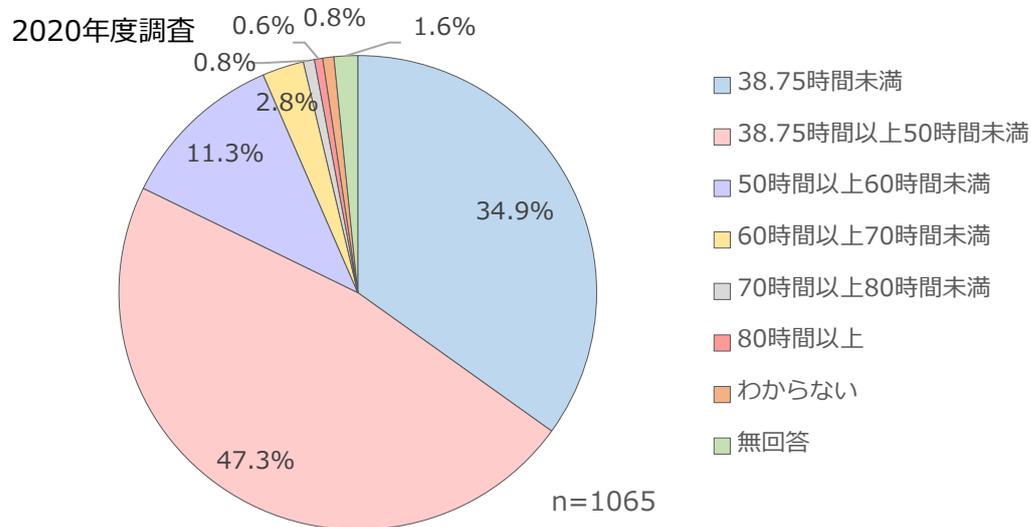


教員回答者の仕事時間について見ると、2009年度調査と比べて2020年度調査では週70時間以上労働の割合が減っている一方、38.75時間以上50時間未満の割合が増えている。つまり労働時間の大幅な超過の割合が減ったものの、小程度の超過の割合が増えたことから、全体で見るとワークライフバランスが改善していると推測される。

なお、2009年度調査では、80時間以上の選択肢がなかったため、該当者は70時間以上80時間未満の回答を選択した可能性も高いが、実際に80時間以上を勤務に費やしていた教員の割合は把握できていない。

	件数	割合
2020 年度調査		
38.75 時間未満	29	6.6%
38.75 時間以上 50 時間未満	107	24.5%
50 時間以上 60 時間未満	137	31.4%
60 時間以上 70 時間未満	86	19.7%
70 時間以上 80 時間未満	42	9.6%
80 時間以上	28	6.4%
無回答	8	1.8%
合計	437	100.0%
2009 年度調査		
38.75 時間未満	42	5.2%
38.75 時間以上 50 時間未満	149	18.6%
50 時間以上 60 時間未満	240	29.9%
60 時間以上 70 時間未満	173	21.6%
70 時間以上 80 時間未満	183	22.8%
無回答	15	1.9%
合計	802	100.0%

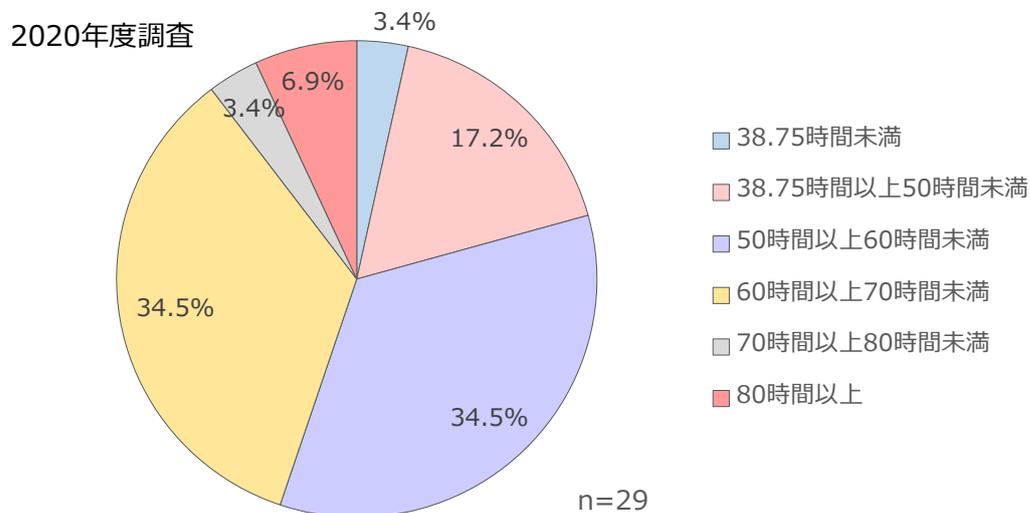
週勤務時間【職員】



職員回答者の仕事時間については、2009年度調査で設問を設けていなかったため、経年比較はできない。2020年度調査の大学教員の労働時間と比較すると、職員の方が週50時間以上労働時間の割合が少ない。職員と教員では職員の方が非常勤職員の割合が高いことも影響していると考えられる。

	件数	割合
38.75 時間未満	372	34.9%
38.75 時間以上 50 時間未満	504	47.3%
50 時間以上 60 時間未満	120	11.3%
60 時間以上 70 時間未満	30	2.8%
70 時間以上 80 時間未満	8	0.8%
80 時間以上	6	0.6%
わからない	8	0.8%
無回答	17	1.6%
合計	1065	100.0%

週勤務時間【附属学校教員】

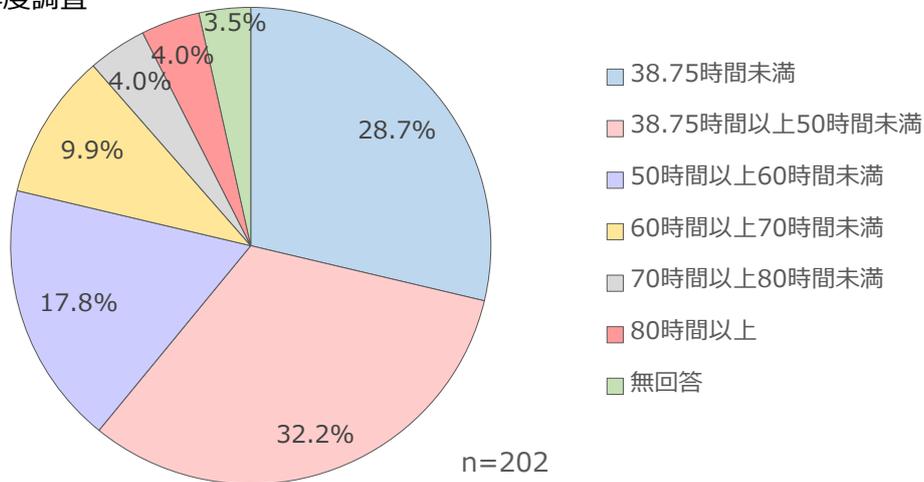


附属学校教員回答者の仕事時間については、2009年度調査の対象者となっていなかったため経年比較ができない。附属学校教員回答者数が少ないため代表性に乏しいが、2020年度調査の大学教員の労働時間と比較すると、38.75時間以上50時間未満の割合が少ない一方、60時間以上70時間未満の割合が高く、業務負担が大きいことが推測される。

	件数	割合
38.75 時間未満	1	3.4%
38.75 時間以上 50 時間未満	5	17.2%
50 時間以上 60 時間未満	10	34.5%
60 時間以上 70 時間未満	10	34.5%
70 時間以上 80 時間未満	1	3.4%
80 時間以上	2	6.9%
合計	29	100.0%

週勤務時間【大学院生】

2020年度調査



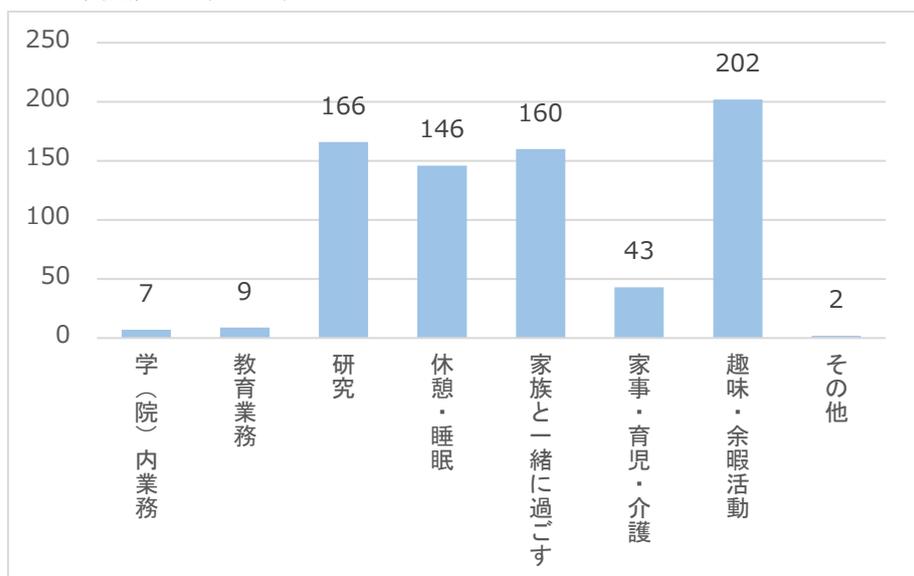
大学院生回答者の研究・学修時間については2009年度調査で設問を設けていなかったため、経年比較はできない。2020年度調査では、週50時間以上研究・学修に費やしている割合が全体の約1/3にのぼった。

	件数	割合
38.75 時間未満	58	28.7%
38.75 時間以上 50 時間未満	65	32.2%
50 時間以上 60 時間未満	36	17.8%
60 時間以上 70 時間未満	20	9.9%
70 時間以上 80 時間未満	8	4.0%
80 時間以上	8	4.0%
無回答	7	3.5%
合計	202	100.0%

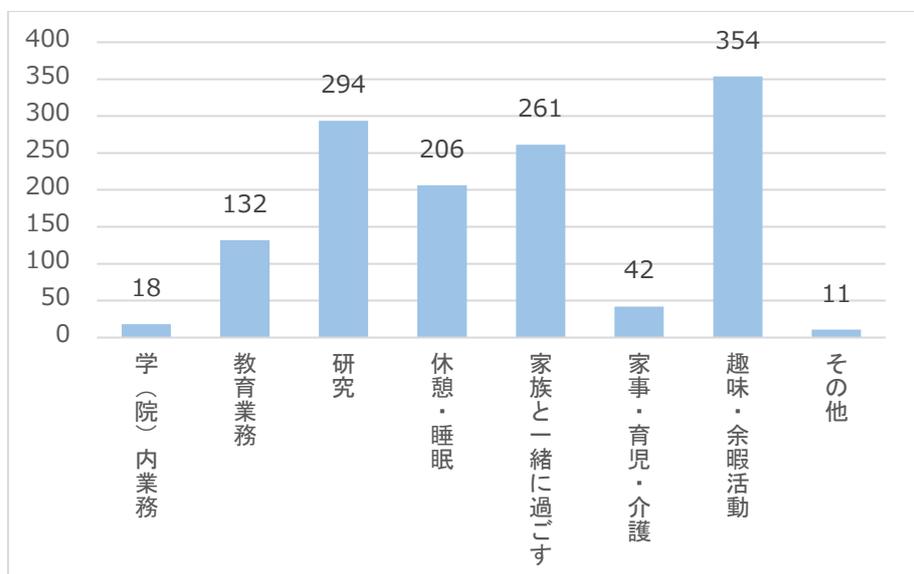
3-3-2. プラス3時間の自由時間の使い方【教員】

Q もし、あなたに、今、1日3時間の自由な時間ができた場合、次のうちどの活動に使いたいですか。（チェックは2つまで）

2020年度調査（n=437）



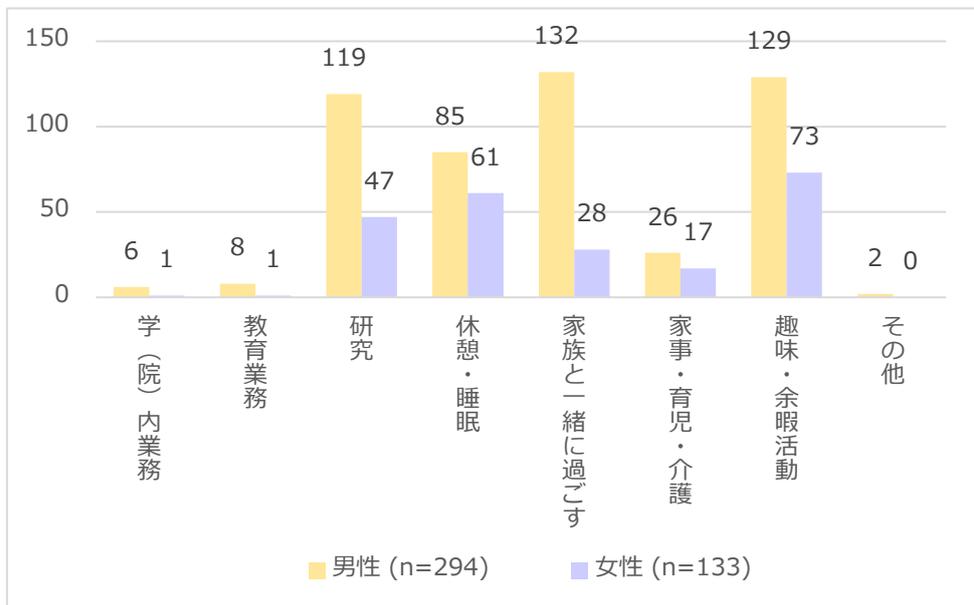
2009年度調査（n=802）



全体の傾向は2009年度調査と2020年度調査でほぼ同様であったが、教育業務に費やしたいとする回答が2009年度に比べて減少した。

2020年度調査では、男女別の集計をしており、その結果を下のグラフに示す。

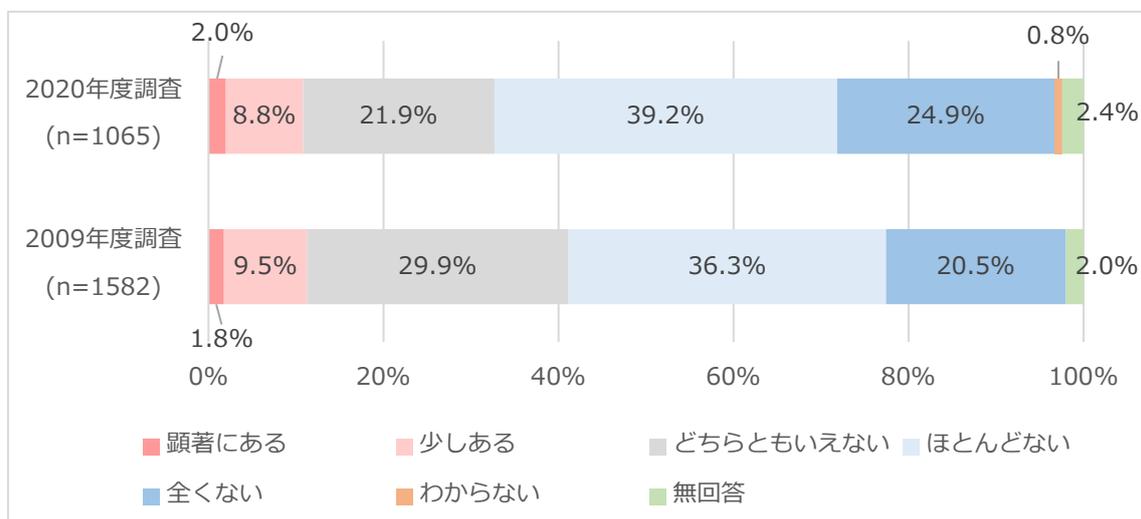
2020 年度調査



男性教員は、「家族と一緒に過ごす」，「趣味・余暇活動」，「研究」の順に多かった。一方女性教員は、「趣味・余暇活動」，「休憩・睡眠」，「研究」の順に多かった。性別による顕著な違いがみられたのは、「家族と一緒に過ごす」選択肢である。女性教員は普段から家族と接する時間が比較的多いのに対し，男性教員は普段家族と一緒に過ごす時間が十分確保できていないことが一因であることが考えられる。また，女性教員の中で「休憩・睡眠」に自由時間を費やしたいとする回答者の比率が比較的高いのは，その部分を削って毎日の生活をこなしているからであろうか。実際にプラス3時間の自由時間を手にすることは困難であるため，余裕のない日常を送っていることが推測できる。

3-3-3. 男女の担当業務の差別的取り扱い【職員】

Q あなたの現在の職場では、男女で担当する業務について、差別的な取り扱いがあると思いますか。



職員回答者の男女の担当業務の差別的取り扱いの意識について、「ほとんどない」と「全くない」とする回答を合わせて、2009年度調査では約57%であったのに対し、2020年度調査では約64%であった。このことから、男女の担当業務の差別的取扱いについては改善の傾向にあると意識されていることがわかる。

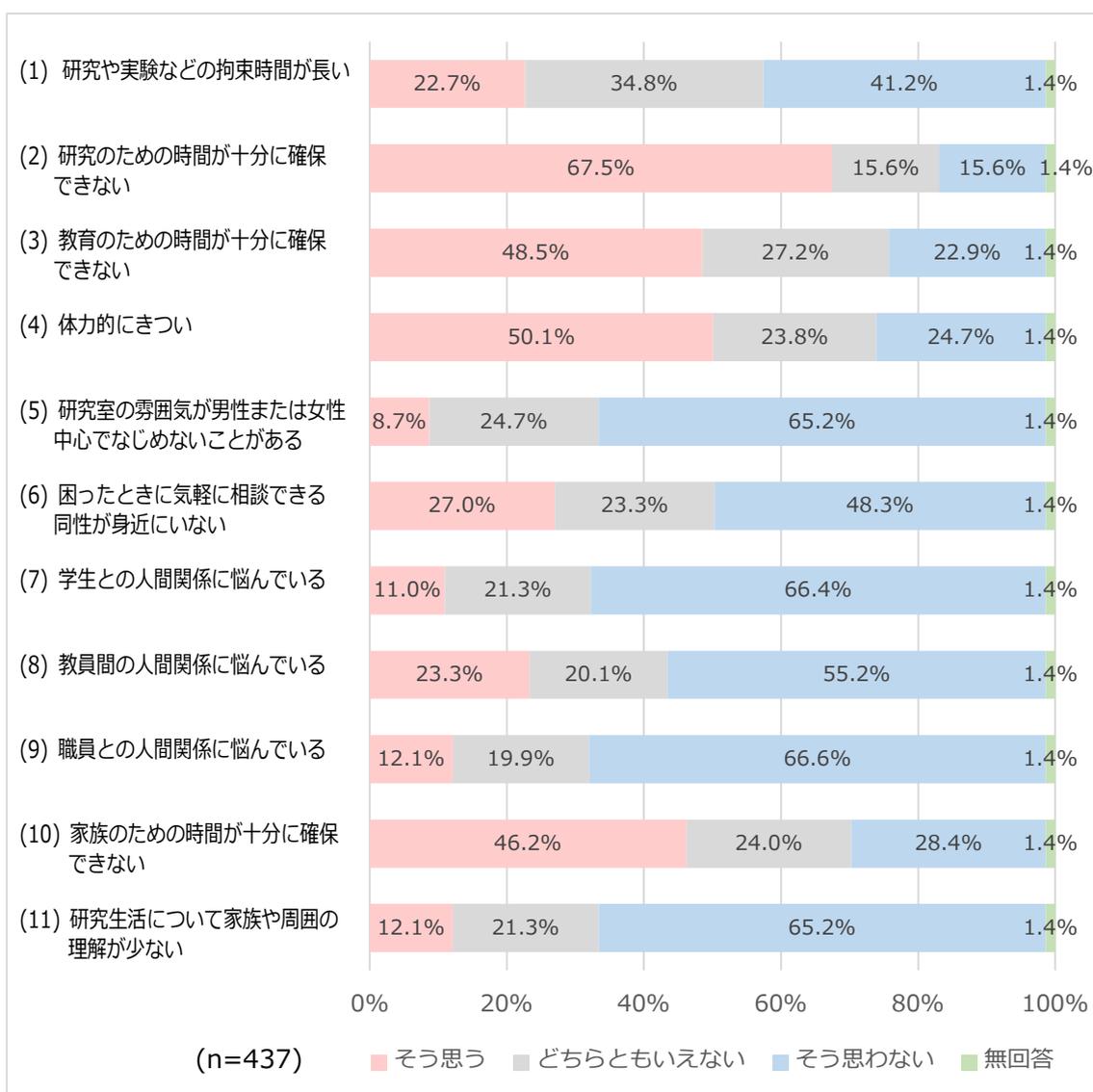
3-3-4. 研究・教育・職務上の問題点

研究・教育上の問題点【教員】

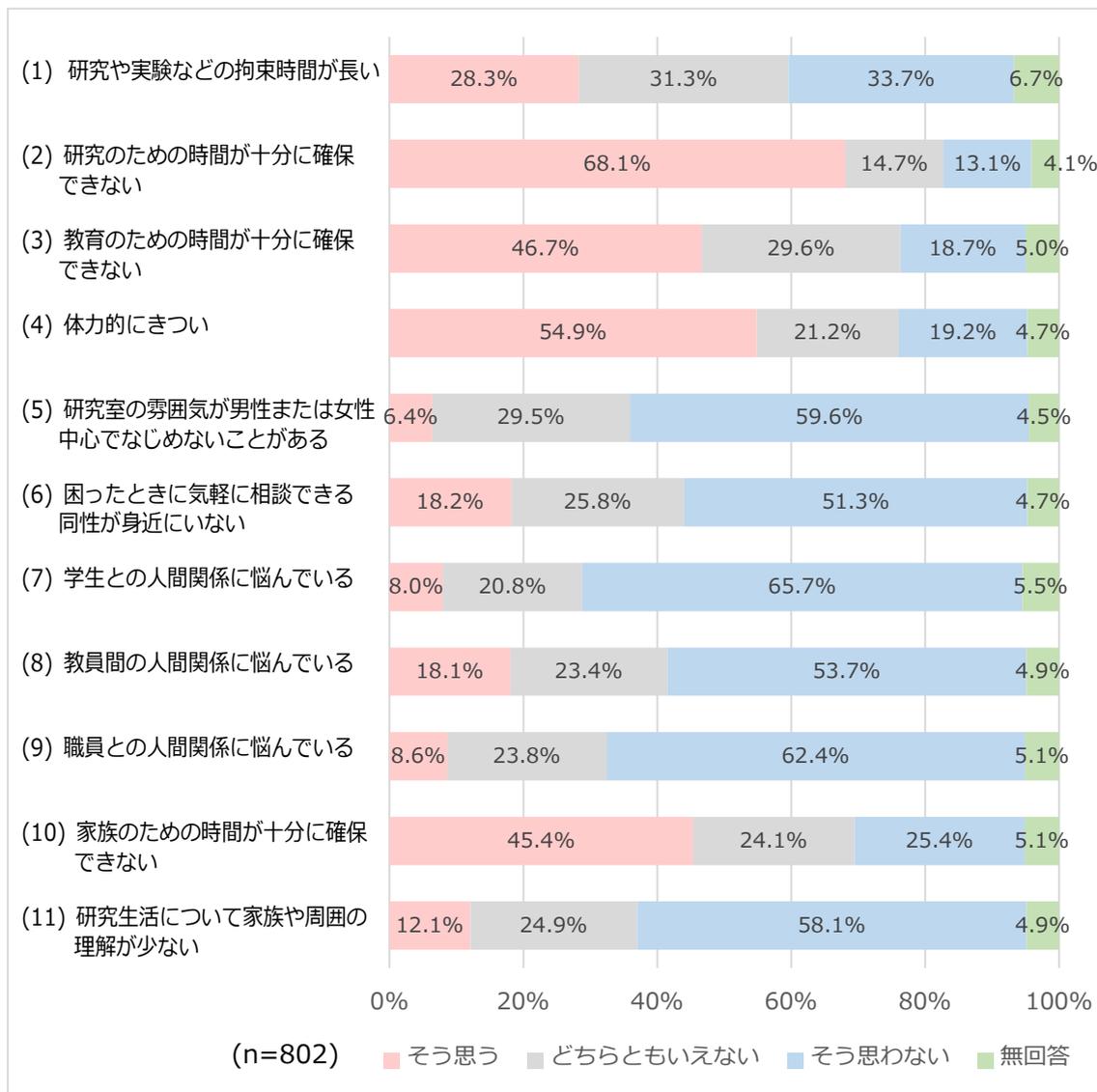
Q あなたは、岡山大学で研究・教育をする上で、次のようなことを感じていますか。

※本設問の回答選択肢は、「とてもそう思う」、「ややそう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」の5択であるが、グラフでは、選択肢のうち「とてもそう思う」と「ややそう思う」を「そう思う」に、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」を「そう思わない」にまとめて表記した（他の属性でも同様）。

2020 年度調査



2009 年度調査

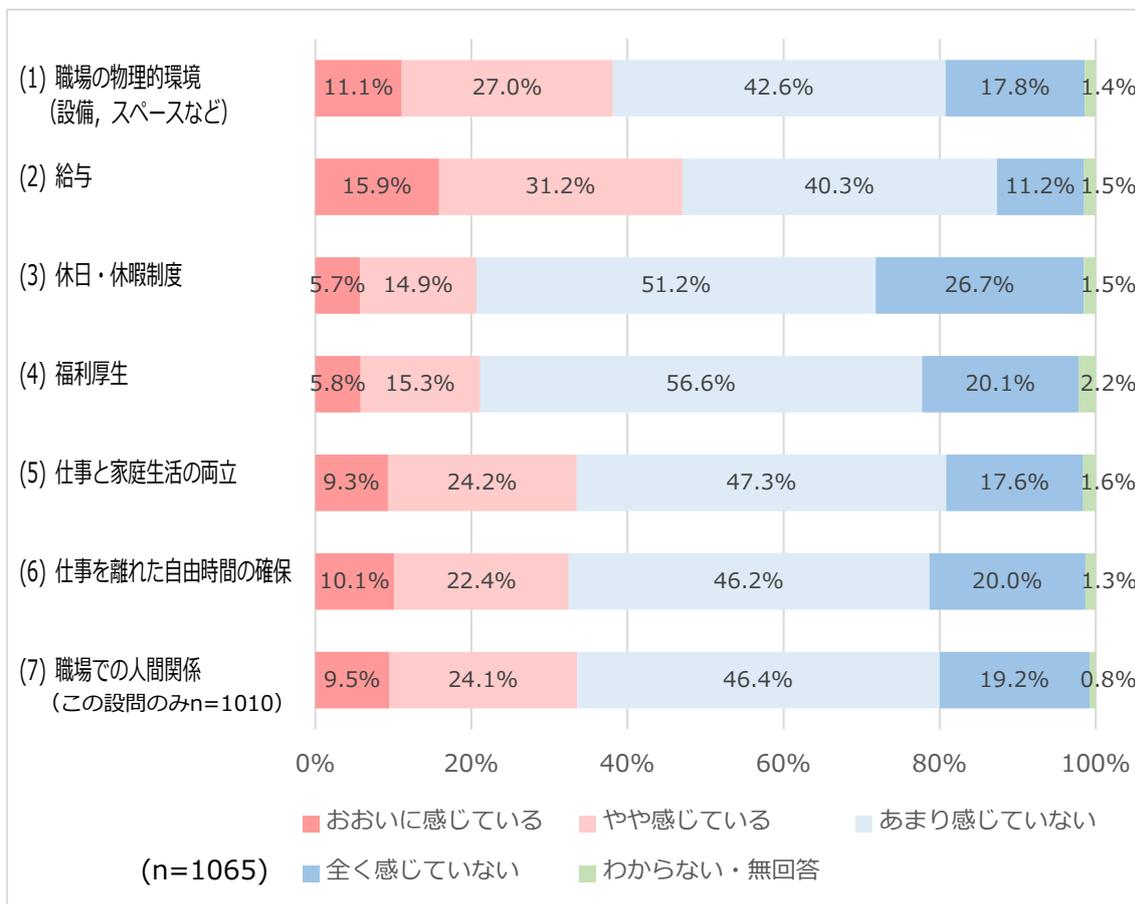


教育・研究上の問題点を問う質問項目の中で、「そう思う（とてもそう思う＋ややそう思う）」とする回答割合が2009年度調査より2020年度調査で高くなった項目は、「研究室の雰囲気が男性または女性中心でなじめないことがある」「相談できる同性が身近にいない」「学生との関係に悩んでいる」「教員間の人間関係に悩んでいる」「職員との人間関係に悩んでいる」であった。いずれも対人関係に関するものである点に注目する必要がある。2020年度調査はコロナ禍で実施されており、何か問題が発生した場合や相談事項がある場合に、対面で話し合うことによる意思疎通や解決が困難であったことが背景にあると考えられる。一方、「そう思う」とする回答が減った項目は「研究や実験などの拘束時間が長い」であり、この点においてはワークライフバランスの改善がある程度は達成されたと推測される。

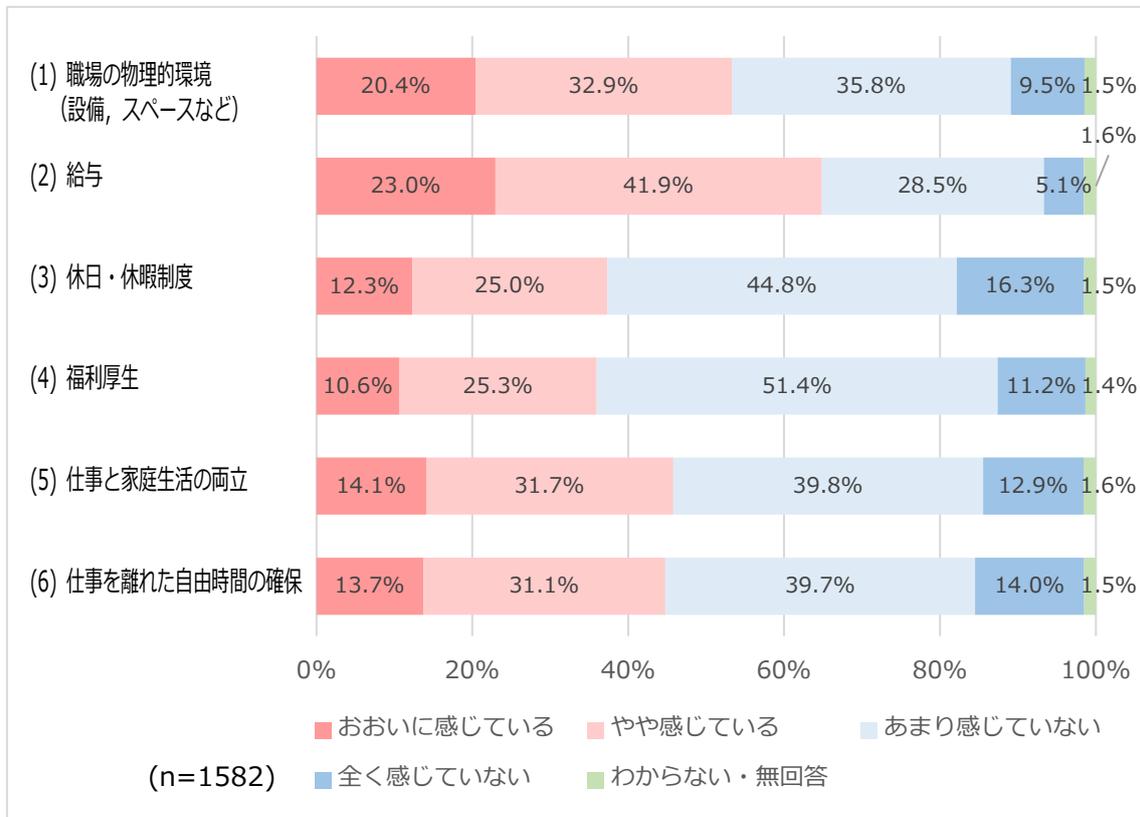
職務上の問題点【職員】

Q 次の事項について、あなたは現在、問題を感じていますか。

2020 年度調査



2009 年度調査

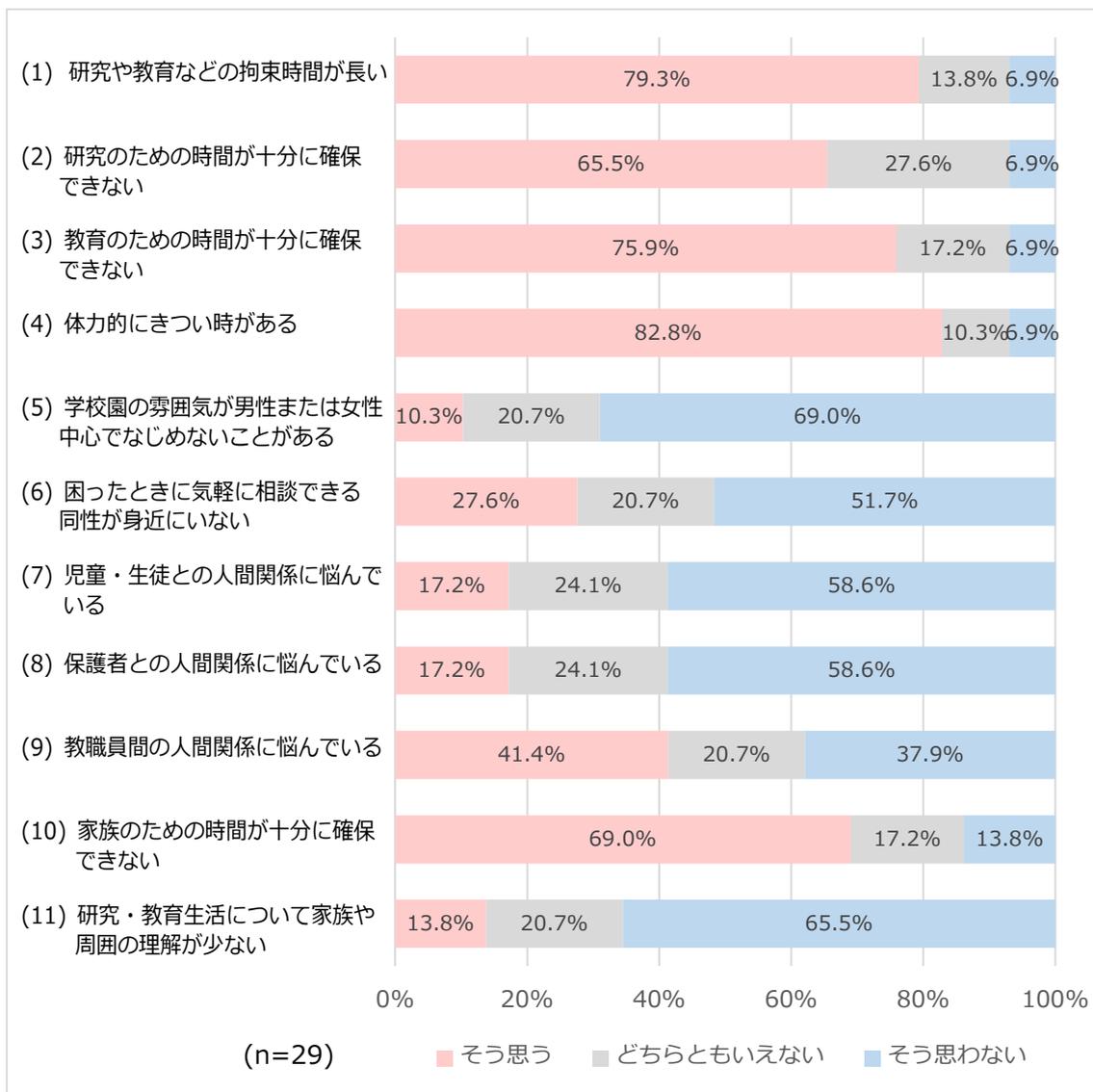


職務上の問題点を問う質問項目の中で、「そう思う（満足している＋やや満足している）」とする回答割合が、2009 年度調査より 2020 年度調査で高くなった項目はなかった。ここに挙げた項目に関する限り、2009 年度調査時に比べ、職務上の問題は全体的に改善していると意識されている。

研究・教育上の問題点【附属学校教員】

Q あなたは、岡山大学で研究・教育をする上で、次のようなことを感じていますか。

2020 年度調査

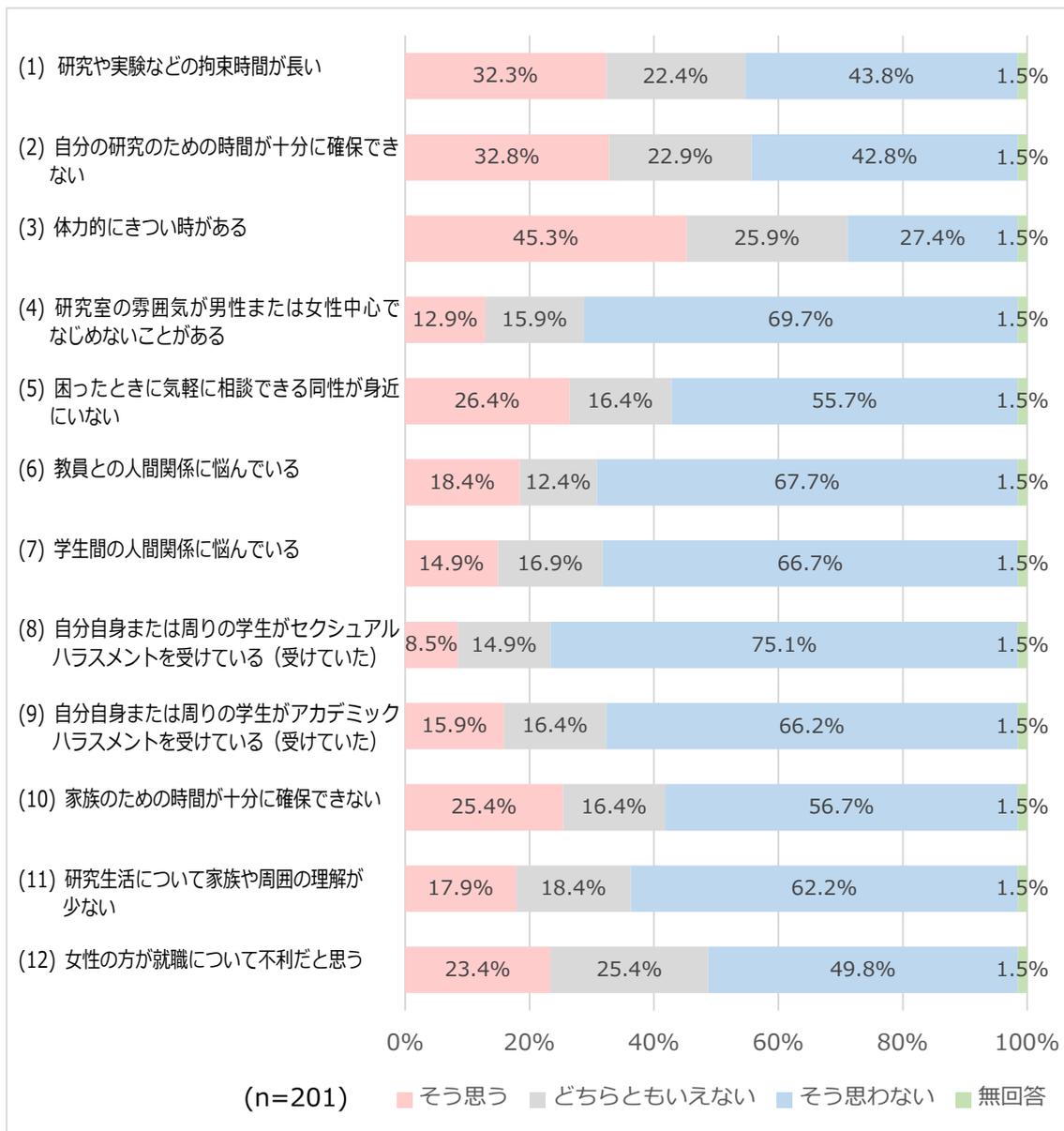


2009 年度の調査では対象となっていなかったため、この項目に関する経時的比較はできない。2020 年度調査の大学教員と比較すると、「研究のための時間が足りない」という項目を除いた全ての項目で、「そう思う」と回答した割合が附属学校教員で高く、附属学校教員の業務上の負担が重いことが推測される。

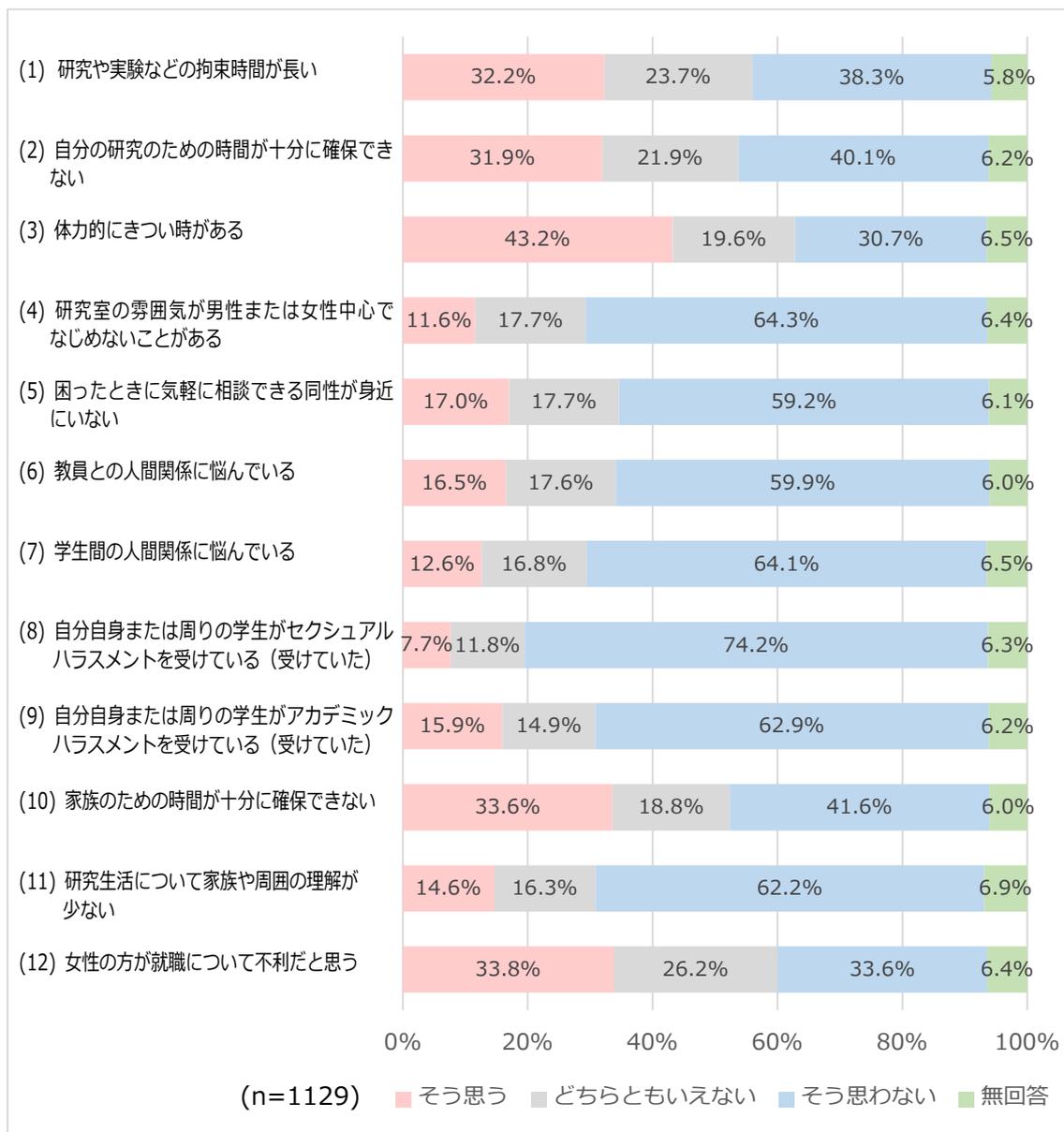
研究上の問題点【大学院生】

Q あなたは、岡山大学で研究する上で、次のようなことを感じていますか。

2020 年度調査



2009 年度調査



研究上の問題点を問う質問項目の中で、「そう思う」とする回答割合が2009年度調査より2020年度調査で高くなった項目は、「研究室の雰囲気が男性または女性中心でなじめないことがある」「相談できる同性が身近にいない」「学生間の人間関係に悩んでいる」「教員との人間関係に悩んでいる」「研究生活について家族や周囲の理解が少ない」であった。いずれも対人関係に関するものであり、コロナ禍の影響により、対面での意思疎通が困難であったことも背景にあると考えられる。

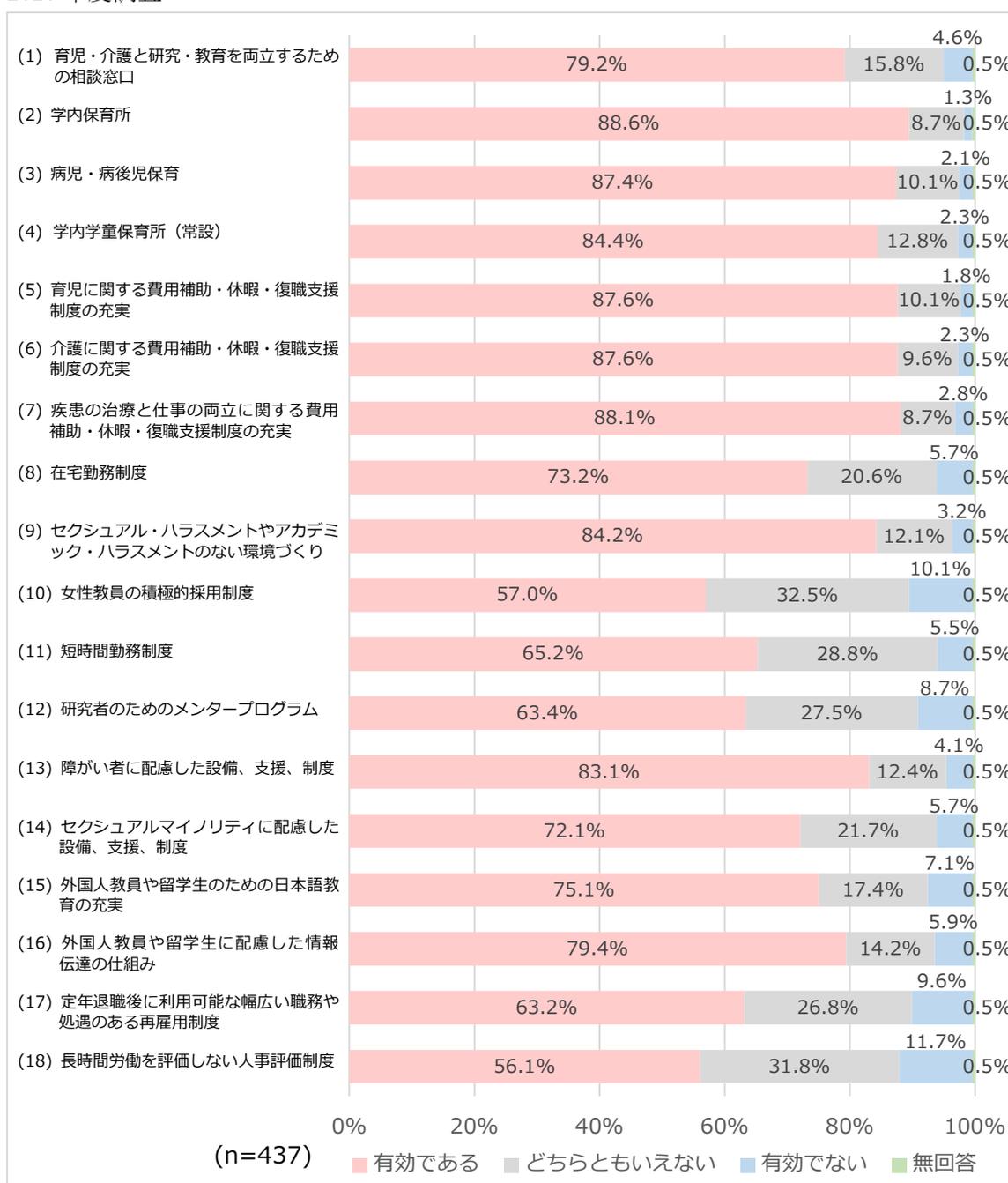
3-4. 仕事・研究と生活の両立支援について

3-4-1. 有効な支援策

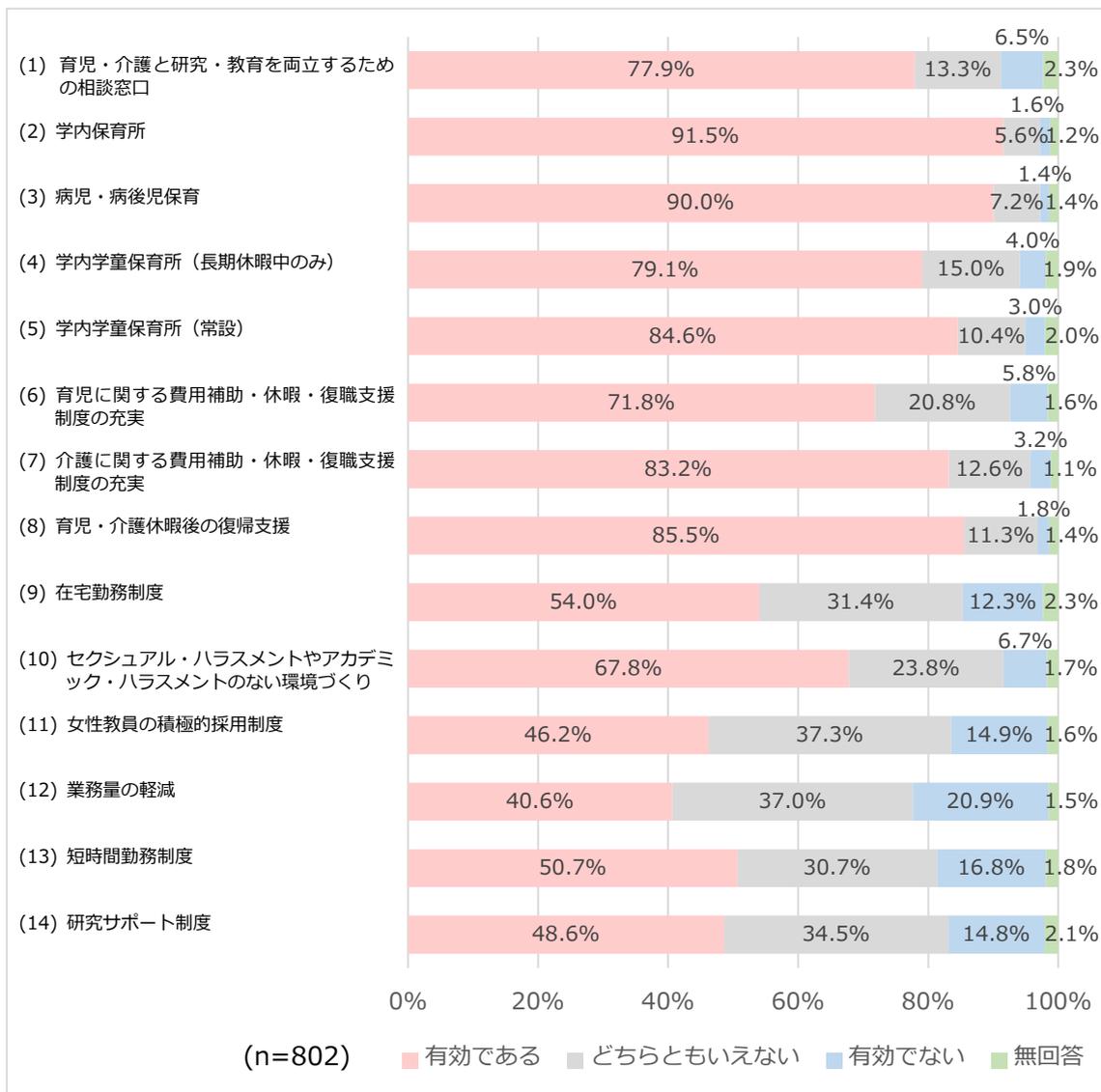
有効な支援策【教員】

Q 一般的に、大学での研究・教育職がより魅力的になり、また大学での研究・教育を継続しやすくなるために、次のような支援は有効だと思いますか。

2020 年度調査



2009 年度調査

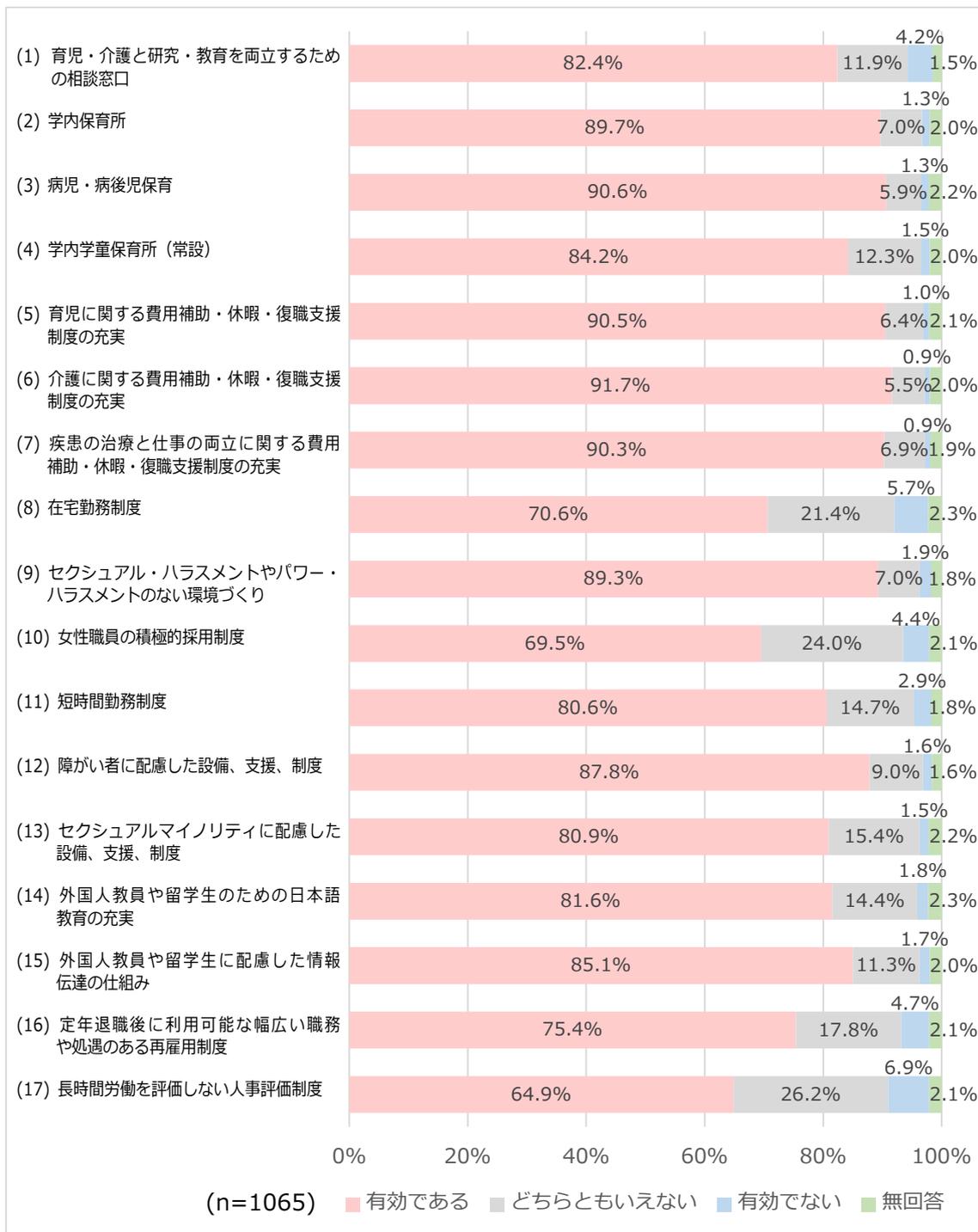


※本設問の回答選択肢は、「とても有効」、「やや有効」、「どちらともいえない」、「あまり有効でない」、「全く有効でない」の5択であるが、グラフでは、選択肢のうち「とても有効」と「やや有効」を「有効である」に、「あまり有効でない」と「全く有効でない」を「有効でない」にまとめて表記した（他の属性でも同様）。

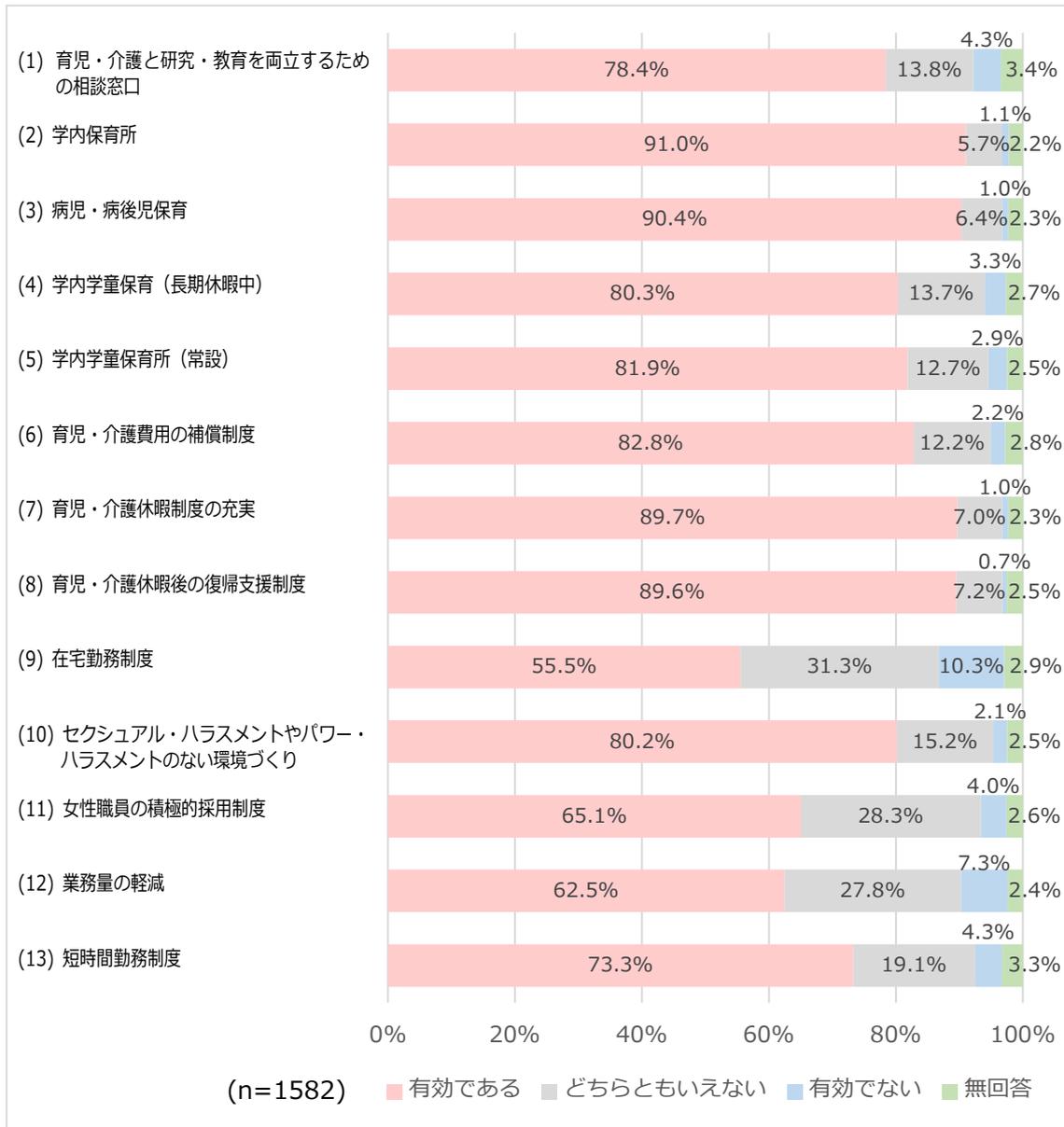
有効な支援策【職員】

Q 一般的に、大学での職務がより魅力的になり、また大学での研究・教育を継続しやすくなるために、次のような支援は有効だと思いますか。

2020 年度調査



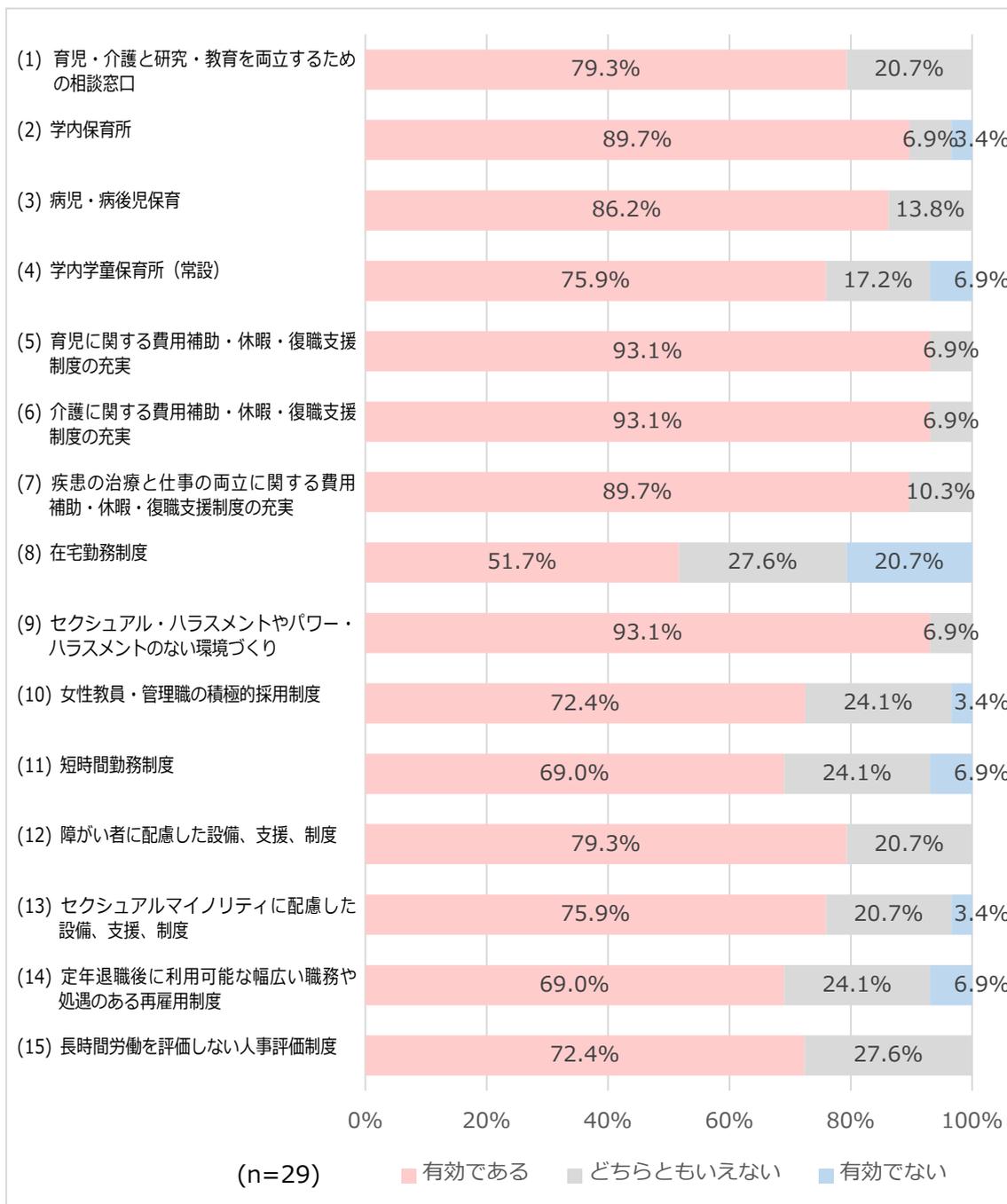
2009 年度調査



有効な支援策【附属学校教員】

Q 一般的に、附属学校園での研究・教育職がより魅力的になり、また附属学校園での研究・教育を継続しやすくなるために、次のような支援は有効だと思いますか。

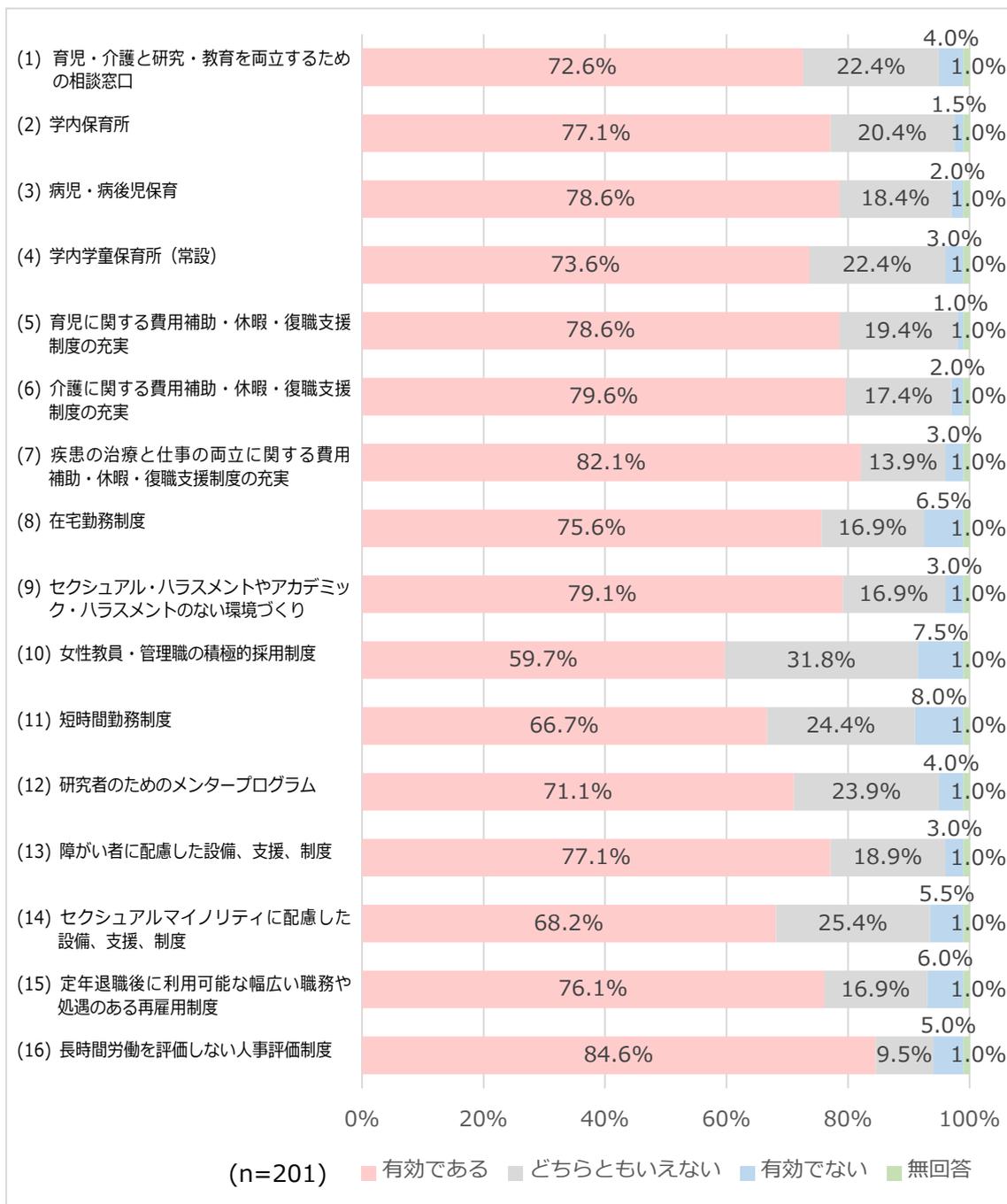
2020 年度調査



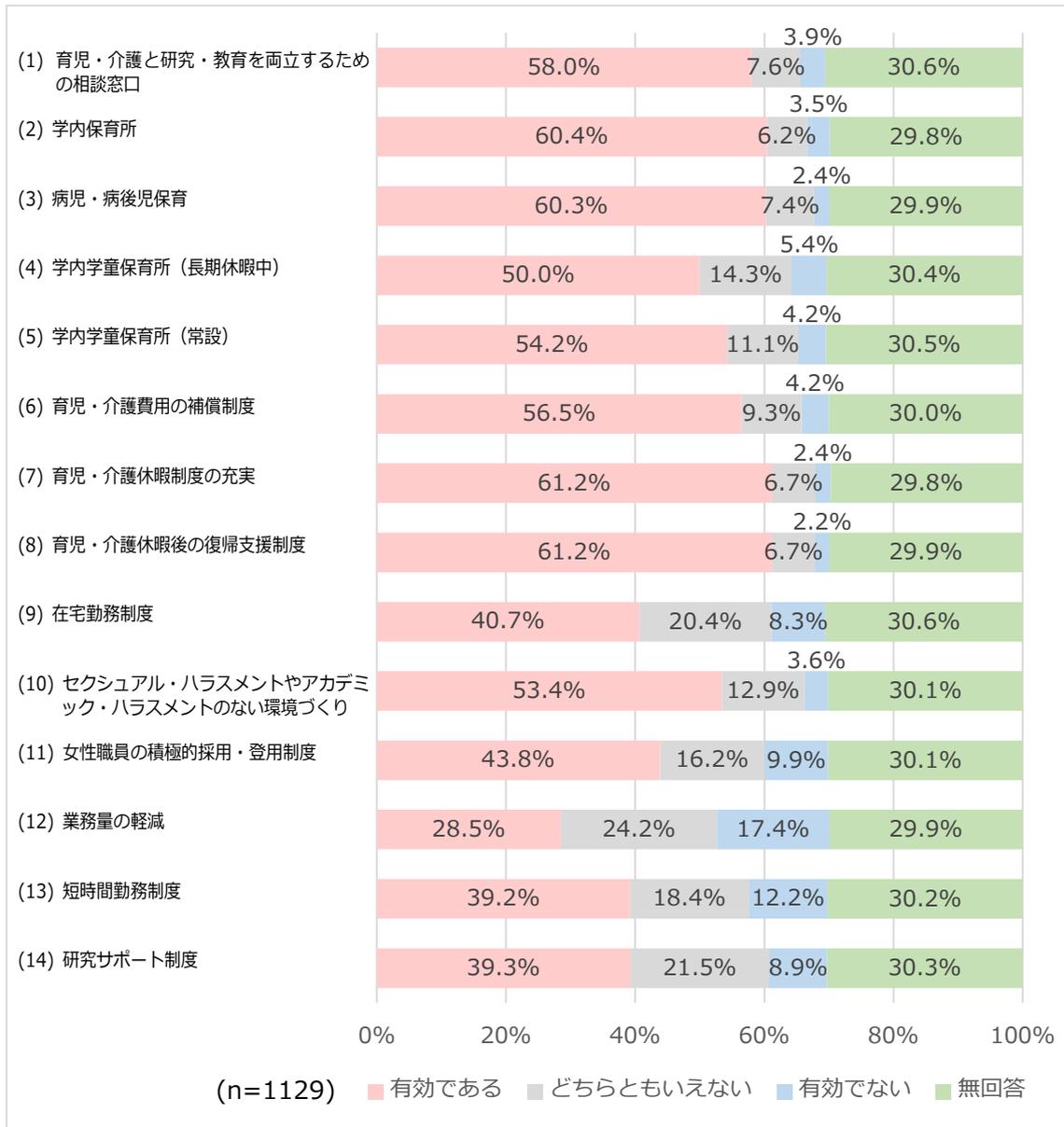
有効な支援策【大学院生】

Q 一般的に、大学での研究職がより魅力的になり、また大学での研究を継続しやすくなるために、次のような支援は有効だと思いますか。

2020 年度調査



2009 年度調査

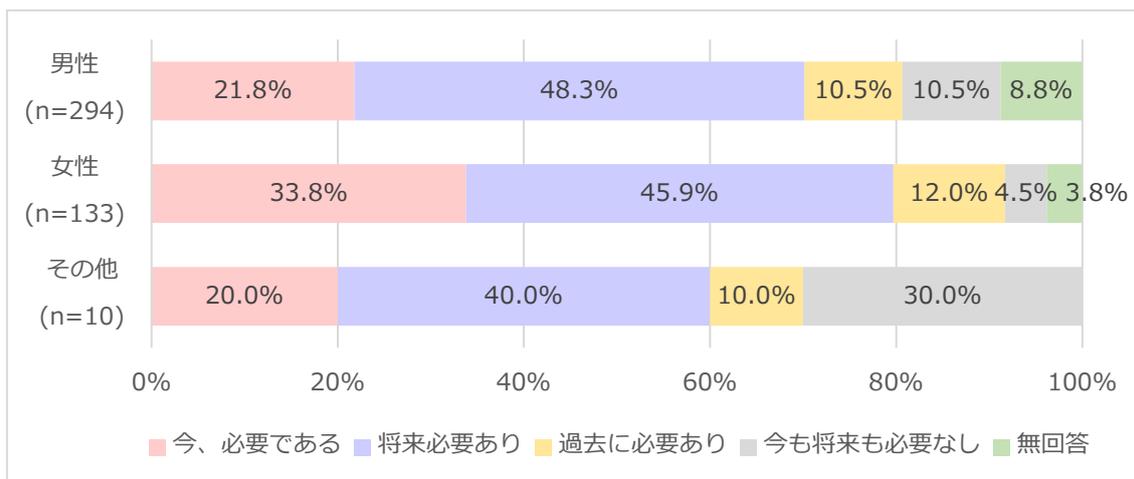


3-4-2. 支援に対する個人的ニーズの有無

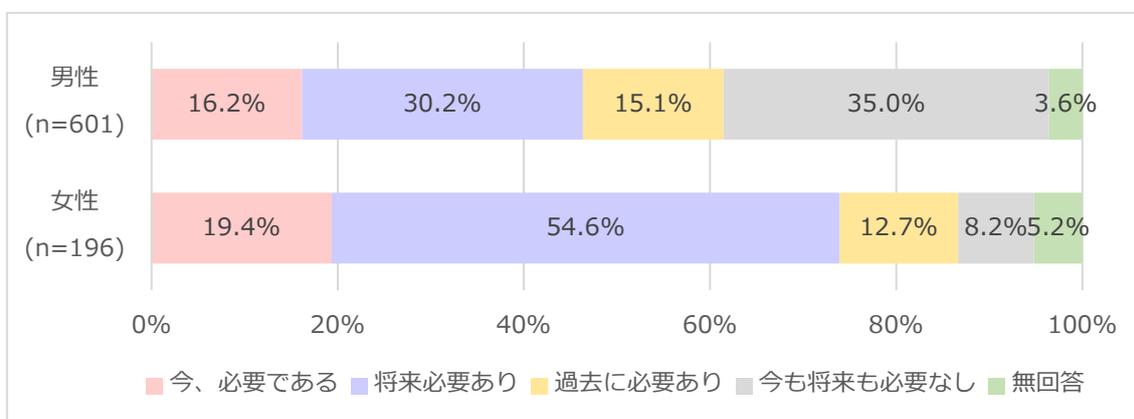
支援の必要性【教員】

Q あなた自身が岡山大学での研究・教育を継続する上で、上記（「有効な支援策」の項）に掲げたような支援を今、あるいは将来必要としていますか。または過去に必要としていましたか。

2020 年度調査



2009 年度調査

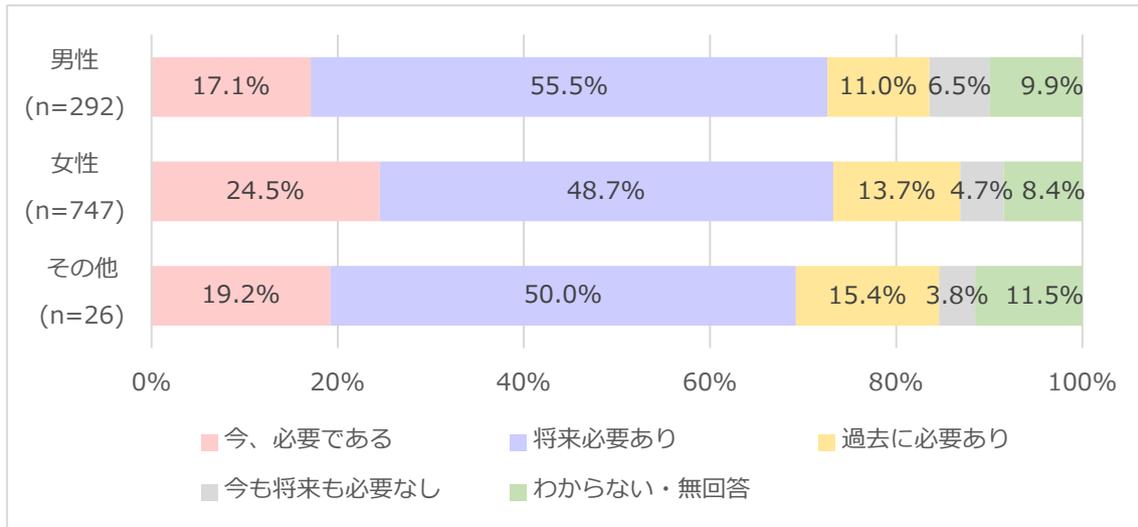


教員回答者の中で、支援の必要性について、男性教員では「過去も今も将来も必要なし」とする回答割合が2020年度調査で大幅に減少した。今回は支援対象項目が若干増えたことに加え、仕事と家庭生活の両立などをめぐり、自らが当事者として生活を組み立てていく上で支援の必要性を意識する男性回答者が増えたと推測される。女性教員は「将来必要あり」とする回答割合が減少した一方、「今、必要である」とする回答割合が増加した。

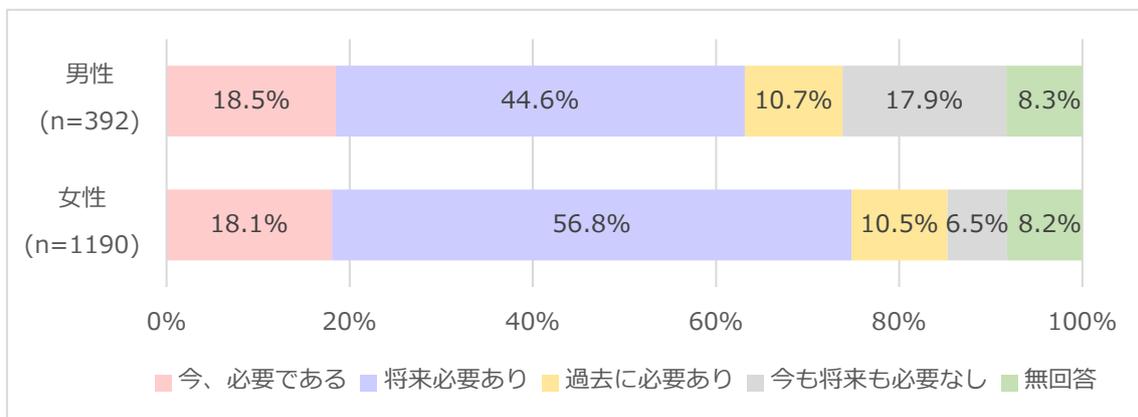
支援の必要性【職員】

Q あなた自身が岡山大学での職務を継続する上で、上記（「有効な支援策」の項）に掲げたような支援を今、あるいは将来必要としていますか。または過去に必要としていましたか。

2020 年度調査



2009 年度調査

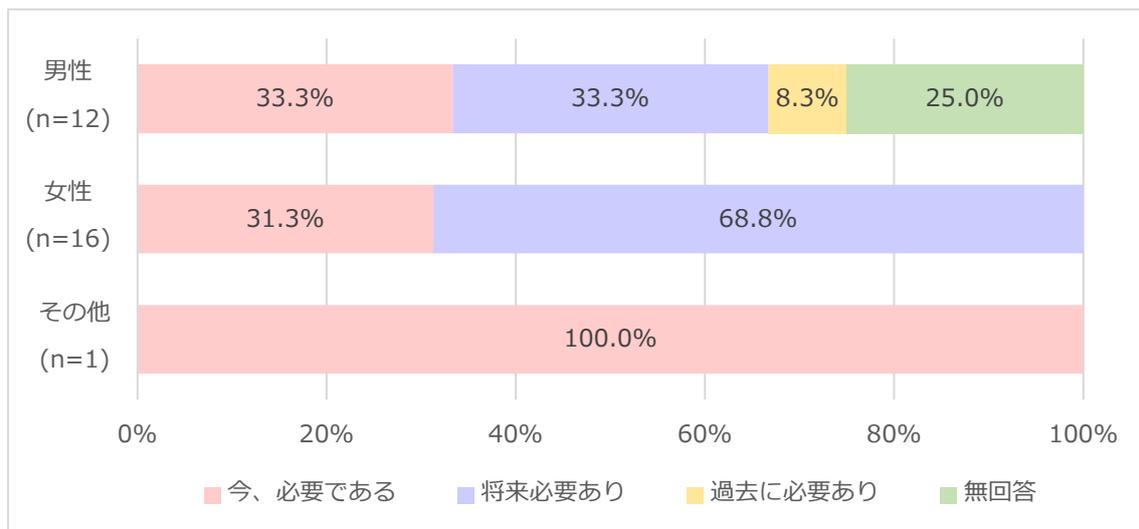


職員回答者の中で、支援の必要性について「今、必要である」＋「将来必要あり」とする回答割合（合算）が、男性職員では2009年度調査より2020年度調査で若干高くなったが、女性職員は低くなった。

支援の必要性【附属学校教員】

Q あなた自身が岡山大学での研究・教育を継続する上で、上記（「有効な支援策」の項）に掲げたような支援を今、あるいは将来必要としていますか。または過去に必要としていましたか。

2020 年度調査

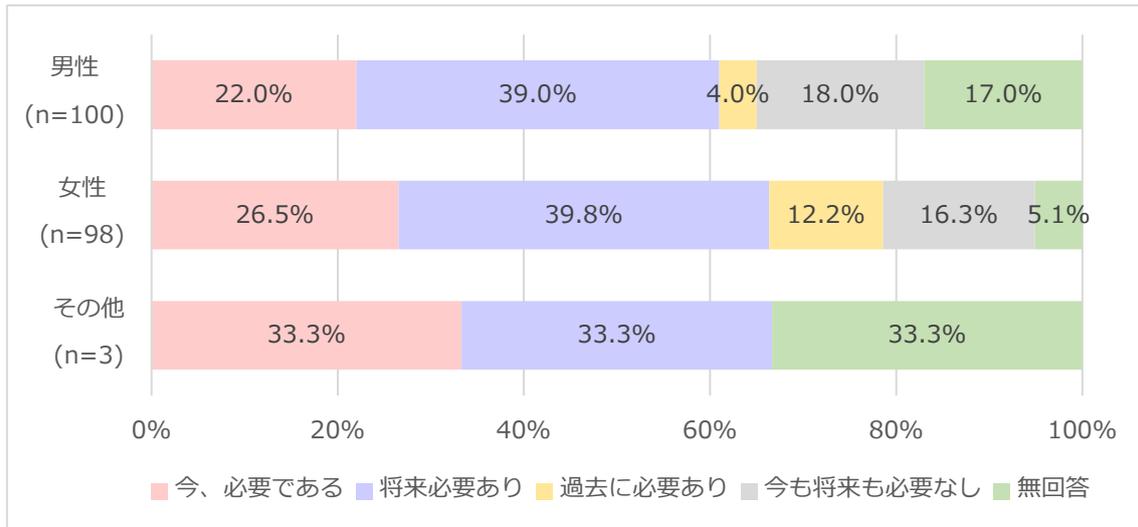


支援の必要性について 2009 年度調査では附属学校教員を対象に調べていないため、経時的比較ができないが、2020 年度の大学教員と比較すると、支援の必要性について「今、必要である」+「将来必要あり」とする回答割合が、男性においては大学教員が若干高かった一方、女性においては附属学校教員が高く、100%であった。なお、「過去も今も将来も必要なし」とする回答は 0%であり、全員が何らかの支援を求めているといえる。

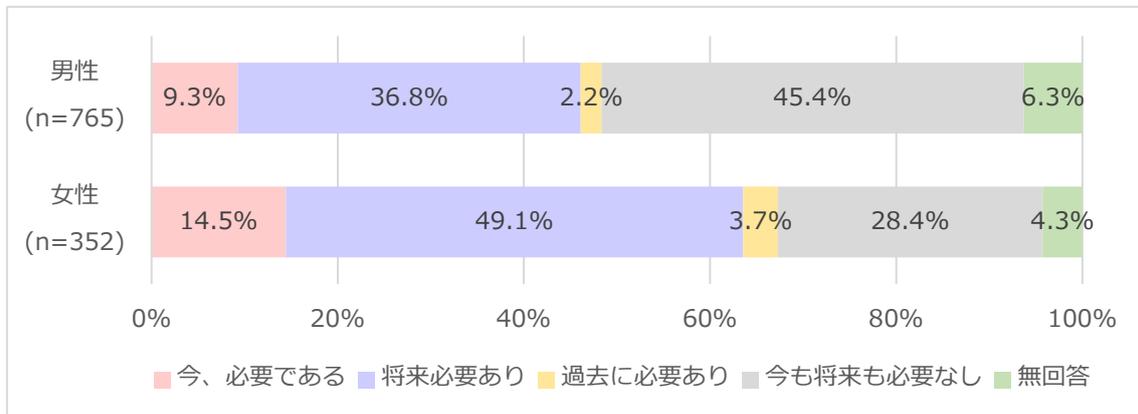
支援の必要性【大学院生】

Q あなた自身が岡山大学での研究を継続する上で、上記（「有効な支援策」の項）に掲げたような支援を今、あるいは将来必要としていますか。または過去に必要としましたか。

2020 年度調査



2009 年度調査



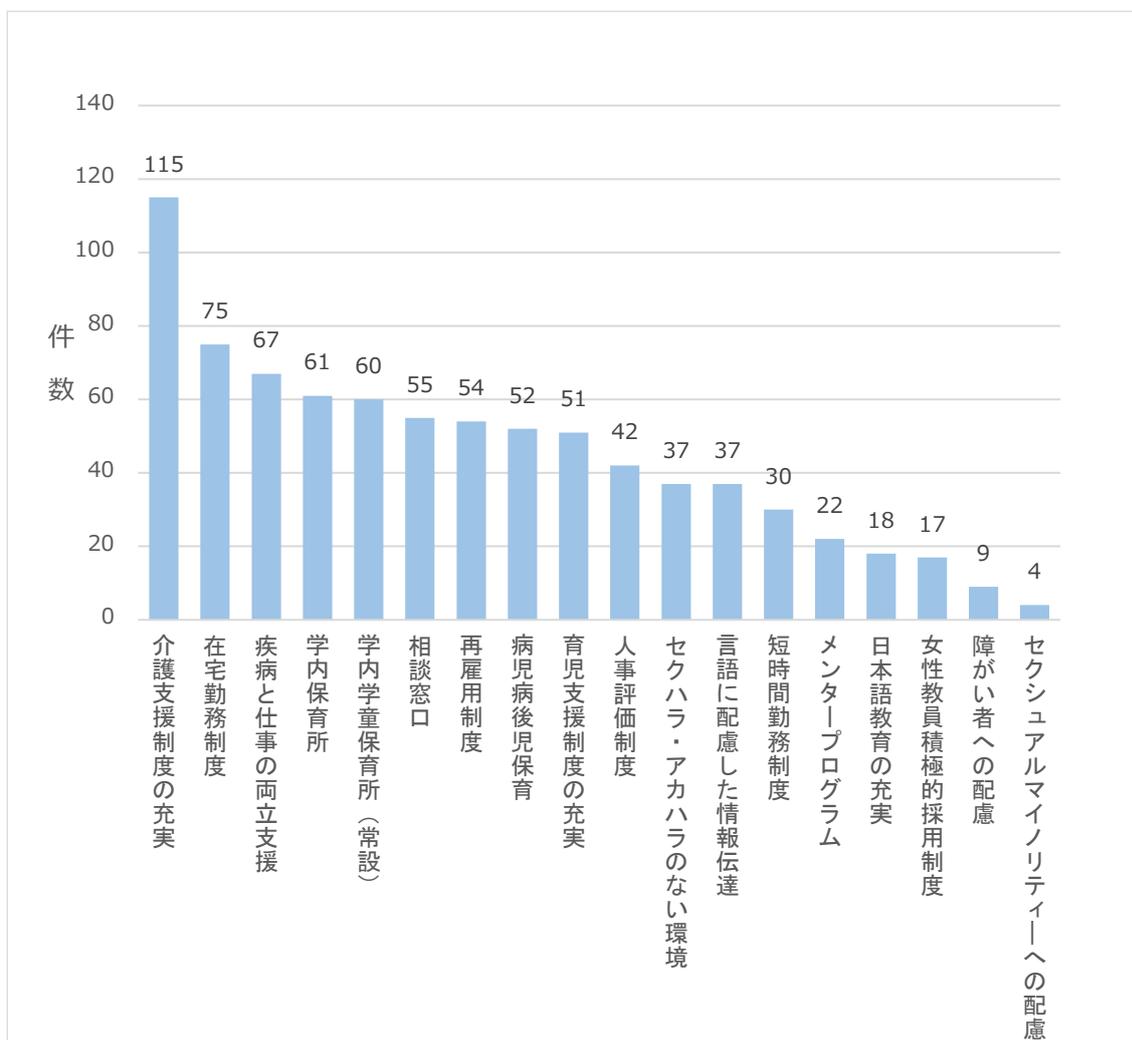
大学院生回答者の中で、支援の必要性について「今、必要あり」とする回答割合が、男性も女性も 2009 年度調査より 2020 年度調査で高くなった。一方、「過去も今も将来も必要なし」とする回答割合は男女共に減少しているものの、男性では無回答が増えている。コロナ禍の影響もあり、いつどうなるかわからない先行き不安感が高まったことが推測される。

3-4-3. 必要とする支援

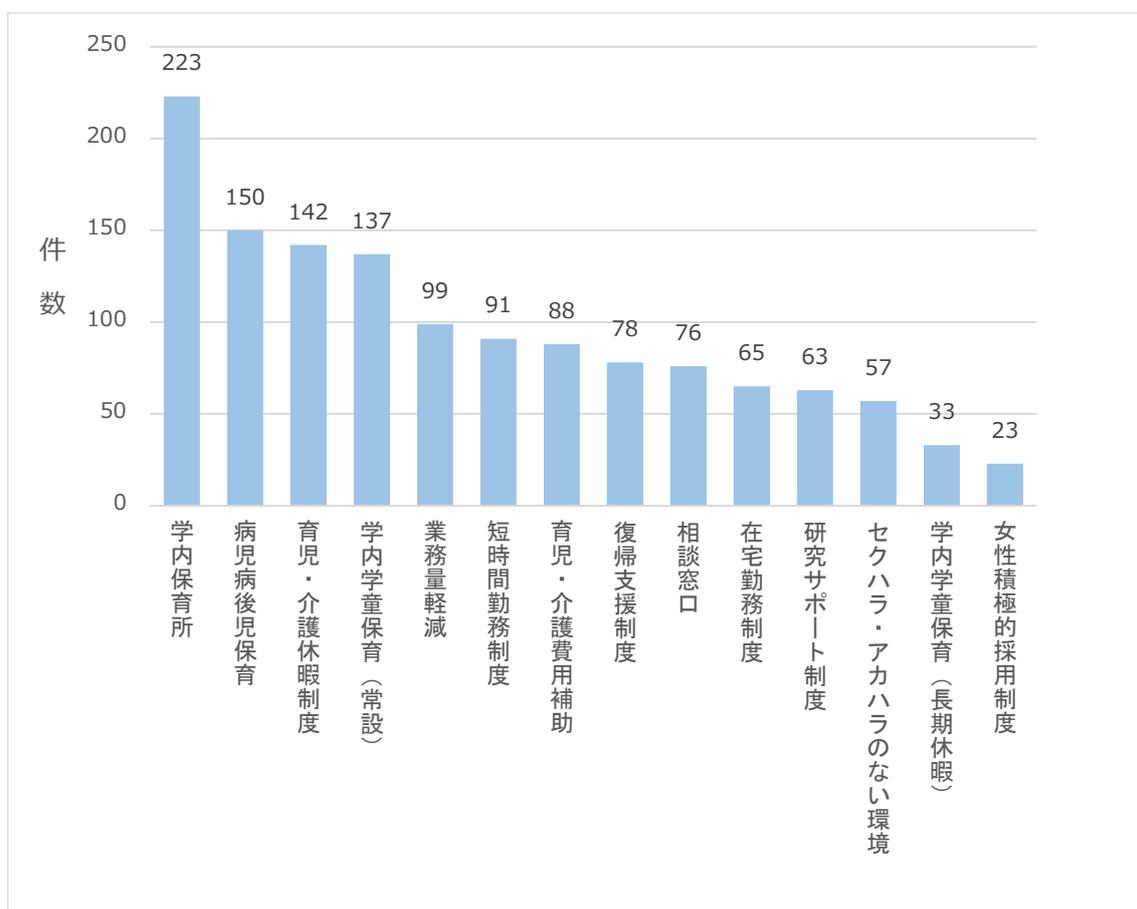
必要とする支援【教員】

Q 「有効な支援策」の項で、「今、必要である」または「今は必要でないが、将来必要になると思う」を選択した方にお尋ねします。あなた自身が岡山大学での研究・教育を継続する上で、今、あるいは将来もっとも必要と思われる支援を次のうちから3つまで選んでください。

2020年度調査 (n=318)



2009 年度調査 (n=424)

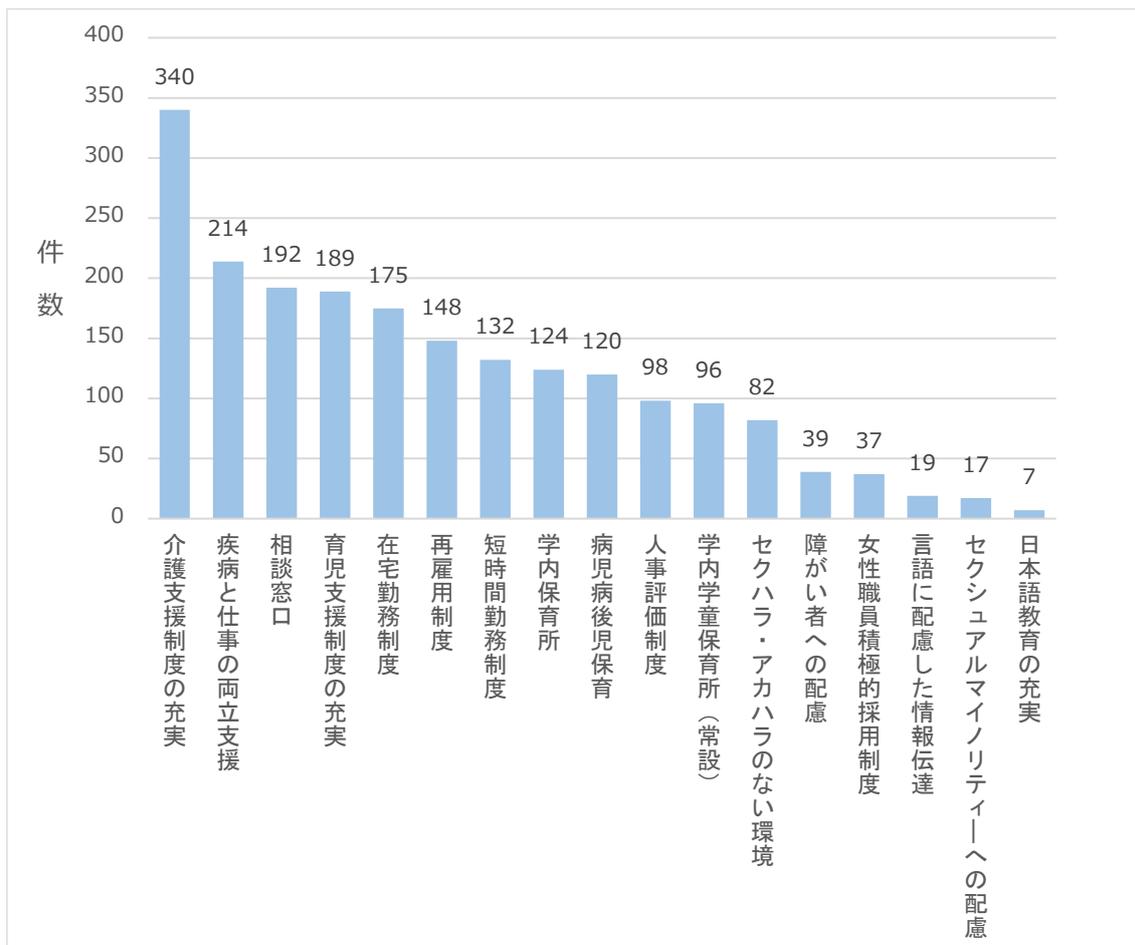


2009 年度調査で最多だった学内保育所は、2020 年度調査では 4 番目の多さだった。保育の受け皿が拡大し、待機児童問題がある程度解消されたことが考えられる。2020 年度調査では、介護支援制度の充実と在宅勤務制度が上位に位置した。これは介護問題が 2009 年度よりも切実な問題となってきていること、コロナ禍の影響で在宅勤務の必要性が高まったことが影響していると考えられる。

必要とする支援【職員】

Q 「有効な支援策」の項で、「今、必要である」または「今は必要でないが、将来必要になると思う」を選択した方にお尋ねします。あなた自身が大学で職務を継続する上で、今、あるいは将来もっとも必要と思われる支援を次のうちから3つまで選んでください。

2020 年度調査 (n=777)

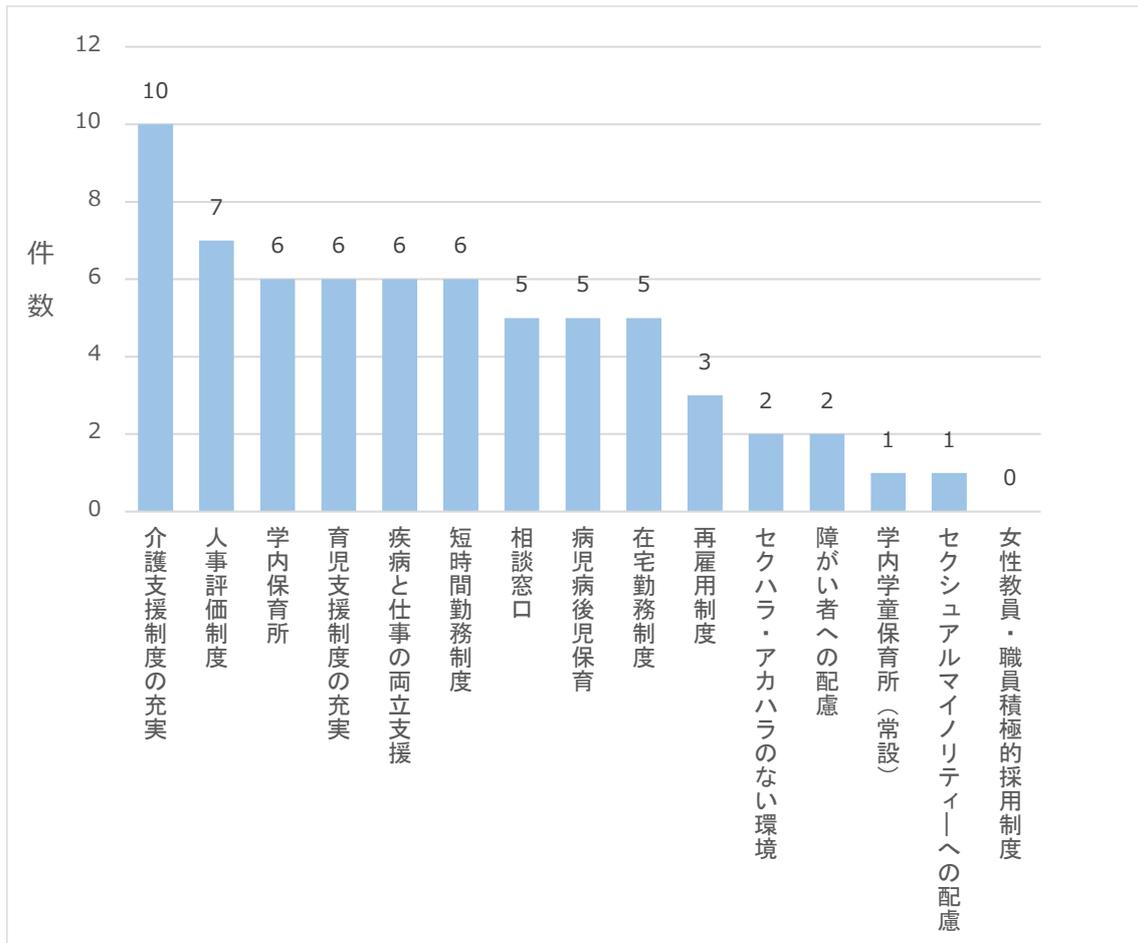


2009 年度調査では、育児・介護休暇制度、短時間勤務制度、学内保育所に対する支援を必要とする回答が上位3位であった。2020 年度調査でも育児および介護支援を必要とする職員は多かったが、学内保育所については順位を下げた。これは保育の受け皿が拡大し、待機児童問題がある程度解消されたことが一因であると考えられる。また、短時間勤務制度も順位を下げた。2009 年度と比較して 2020 年度調査では、相談窓口や在宅勤務制度の支援を必要とする回答が上位となった。

必要とする支援【附属学校教員】

Q 「有効な支援策」の項で、「今、必要である」または「今は必要でないが、将来必要になると思う」を選択した方にお尋ねします。あなた自身が岡山大学で研究・教育を継続する上で、今、あるいは将来もっとも必要と思われる支援を次のうちから3つまで選んでください。

2020 年度調査 (n=25)



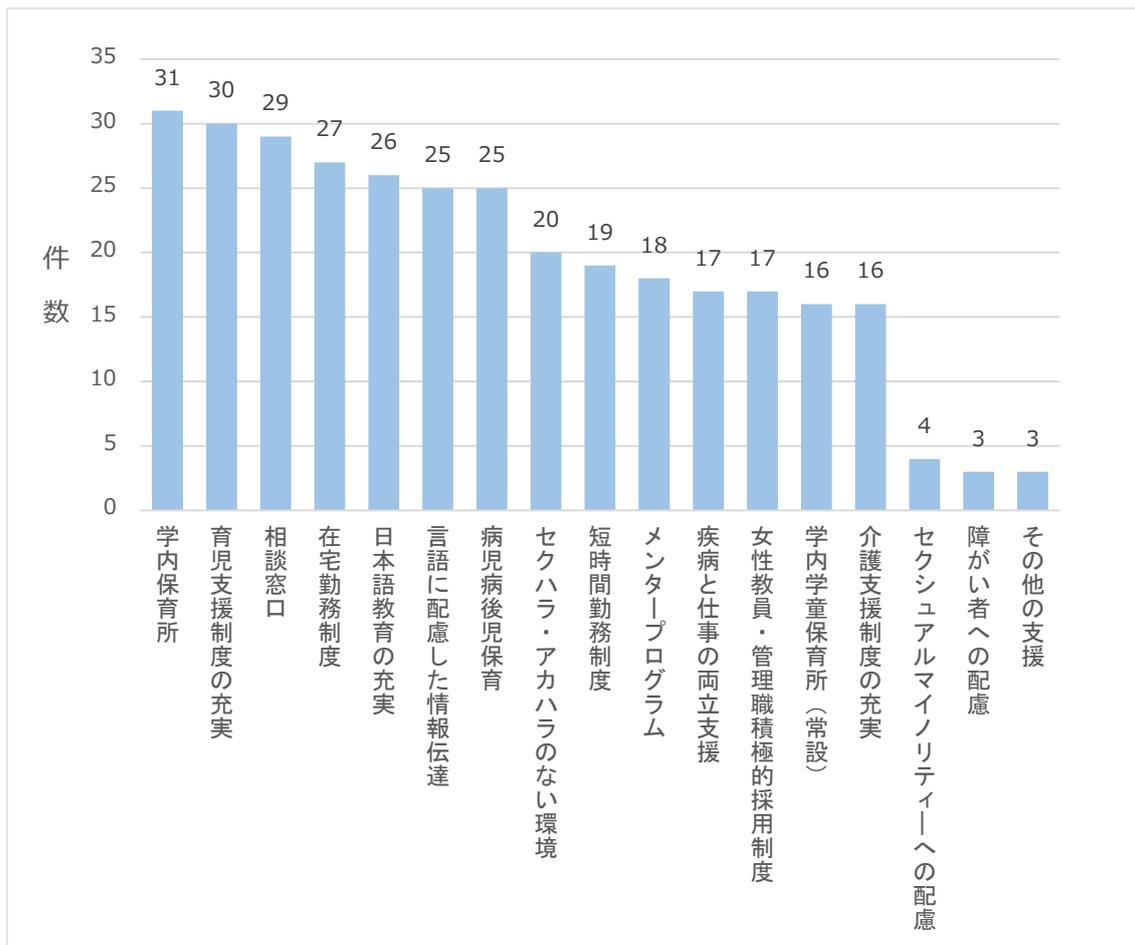
附属学校教員については2009年度調査を行っていないため、経年比較できない。2020年度調査では、介護支援制度の充実を必要とする回答が最も多かったが、これは大学教員および職員とも共通しており、今後の対応が課題となる。

必要とする支援【大学院生】

Q 「有効な支援策」の項で、「今必要である」または「今は必要でないが、将来必要になると思う」を選択した方にお尋ねします。

あなた自身が岡山大学での研究を継続する上で、今、あるいは将来もっとも必要と思われる支援を次のうちから3つまで選んでください。

2020 年度調査 (n=123)



学内保育所や育児支援制度の充実に対する支援を必要とする回答は、2009 年度調査同様 2020 年度調査でも高かった。日本語教育の充実および言語に配慮した情報伝達に対する支援については 2009 年度調査では項目がなかったが、留学生数が増えていることからこれらの支援の拡充が必要とされていることが考えられる。2020 年度調査では在宅勤務制度の必要性も高まったが、これはコロナ禍を反映していると考えられる。

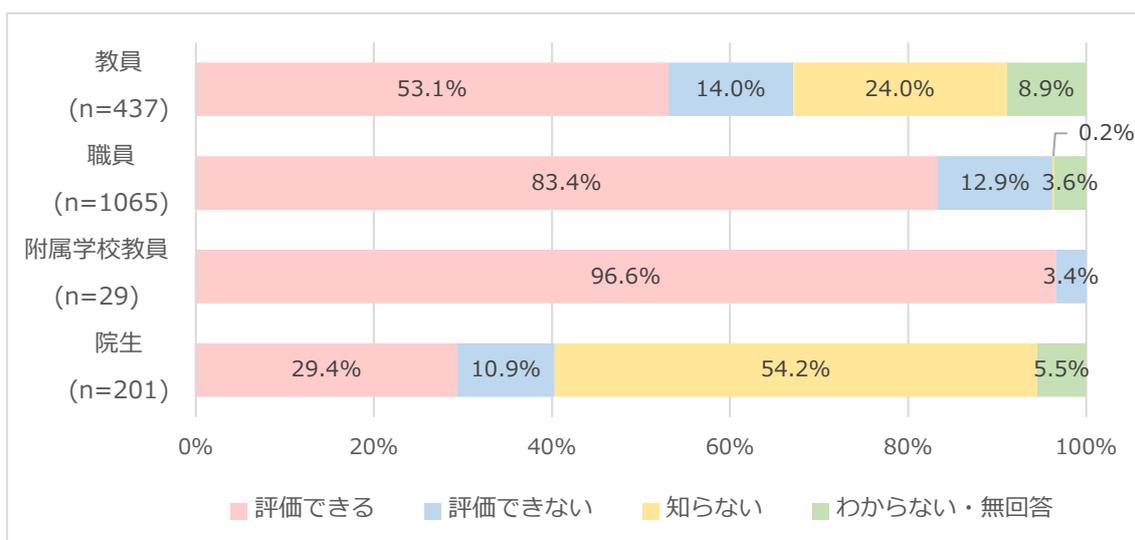
3-5. 男女共同参画の現状と意識について

3-5-1. 男女共同参画室に対する評価

男女共同参画室に対する評価 × 属性

Q 岡山大学におけるこれまでの男女共同参画室の取り組みを評価できますか。

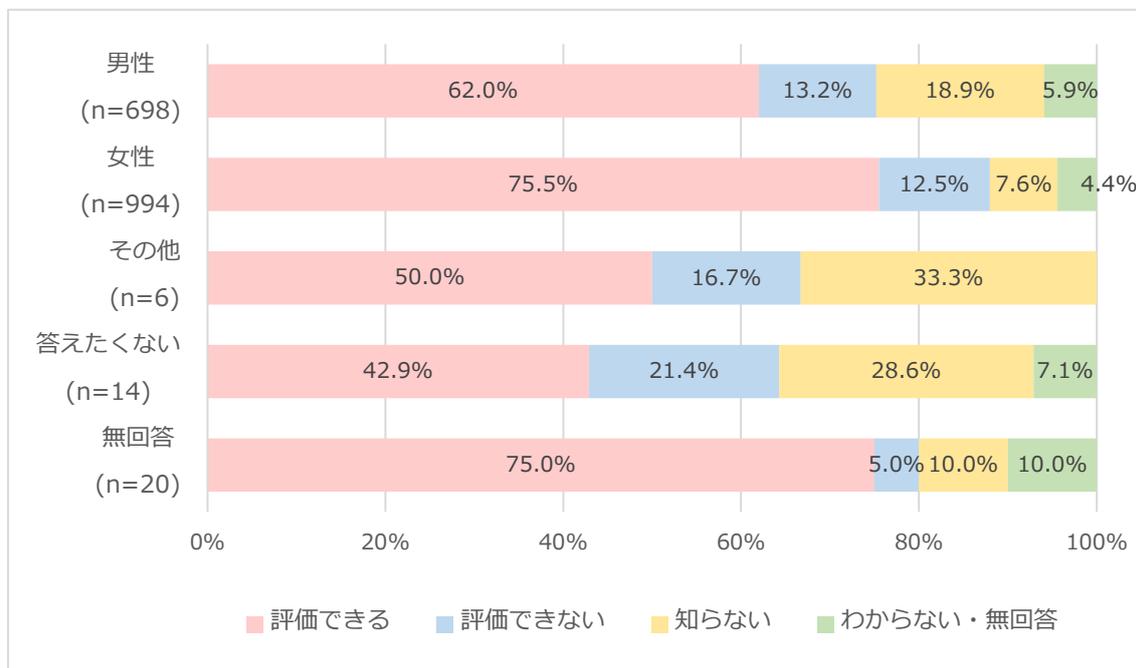
2020 年度調査



教員、職員、附属学校教員では、評価できないとする回答もあったが、評価できるとする回答が大半であった。教員については、男女共同参画室の存在を知らないとする回答が約 1/4 あり、男女共同参画室の活動内容や取り組みについての周知が今後の課題とされる。大学院生については、評価できるとする回答は約 3 割にとどまり、知らないとする回答が半数以上を占めた。大学院生に対する支援につなげるためにも大学院生への周知を行うことが必要とされる。

男女共同参画室に対する評価 × 性別

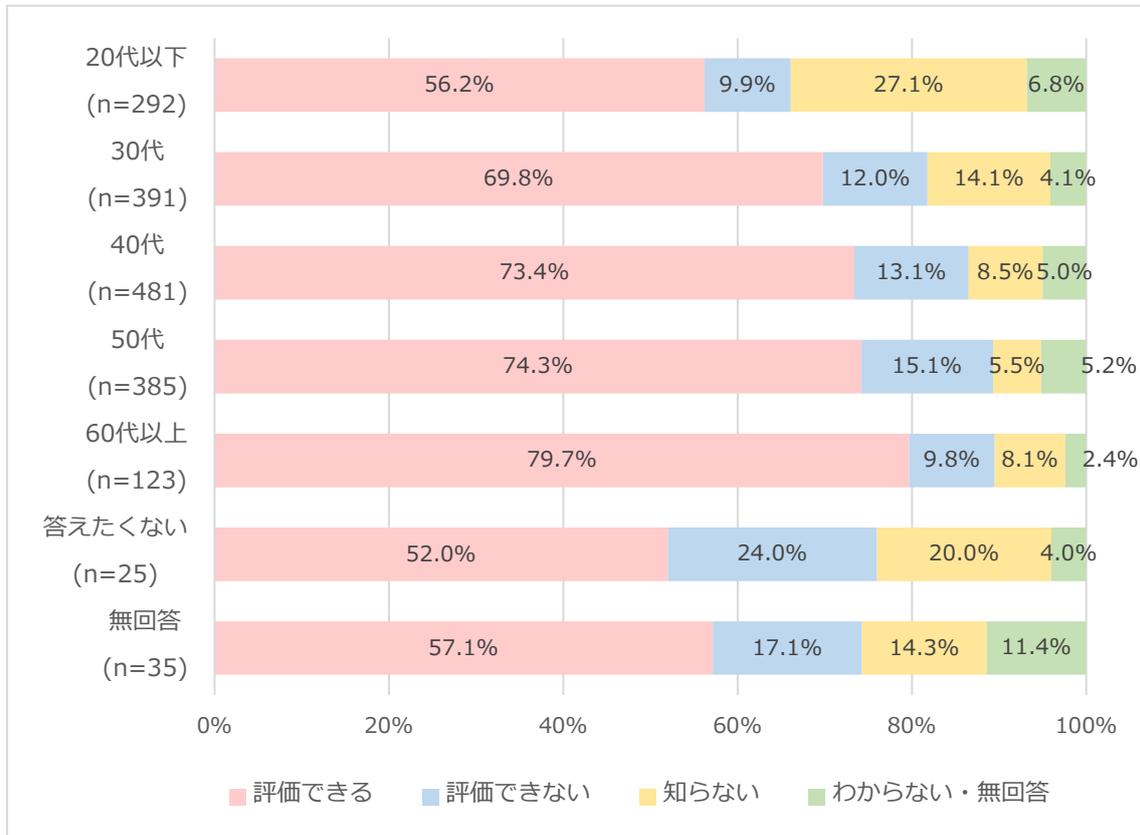
2020 年度調査



男性も女性も、評価できないとする回答が1割強占めたものの、大半は評価できるとする回答であり、その割合は女性の方が高かった。男性は知らないとする回答が約2割を占めた。

男女共同参画室に対する評価 × 年齢

2020 年度調査



年齢層が高くなるに伴い、評価できるとする回答割合が高かった。一方、知らないとする回答割合は若い年齢層になるほど高かった。大学院生を含む若い年齢層に男女共同参画室の取り組みについてより一層周知することが今後の課題である。